

HP OMi Management Pack for SAP

ソフトウェアバージョン: 1.00

HP Operations Manager i (Linux および Windows® オペレーティング システム)

インストールガイド

ドキュメントリリース日: 2015 年 1 月

ソフトウェアリリース日: 2014 年 5 月



ご注意

保証

HP 製品、またはサービスの保証は、当該製品、およびサービスに付随する明示的な保証文によってのみ規定されるものとします。ここでの記載は、追加保証を提供するものではありません。ここに含まれる技術的、編集上の誤り、または欠如について、HPはいかなる責任も負いません。

ここに記載する情報は、予告なしに変更されることがあります。

権利の制限

機密性のあるコンピューターソフトウェアです。これらを所有、使用、または複製するには、HPからの有効な使用許諾が必要です。商用コンピューターソフトウェア、コンピューターソフトウェアに関する文書類、および商用アイテムの技術データは、FAR 12.211 および 12.212 の規定に従い、ベンダーの標準商用ライセンスに基づいて米国政府に使用許諾が付与されます。

著作権について

© Copyright 2014 - 2015 Hewlett-Packard Development Company, L.P.

商標について

Adobe® は、Adobe Systems Incorporated (アドビシステムズ社) の登録商標です。

Microsoft® および Windows® は、Microsoft グループの米国における登録商標です。

UNIX® は、The Open Group の登録商標です。

Oracle と Java は、Oracle Corporation およびその関連会社の登録商標です。

ドキュメントの更新情報

このマニュアルの表紙には、以下の識別情報が記載されています。

- ソフトウェアバージョンの番号は、ソフトウェアのバージョンを示します。
- ドキュメントリリース日は、ドキュメントが更新されるたびに更新されます。
- ソフトウェアリリース日は、このバージョンのソフトウェアのリリース期日を表します。

更新状況、およびご使用のドキュメントが最新版かどうかは、次のサイトで確認できます。<https://softwaresupport.hp.com/group/softwaresupport/search-result?keyword=>

このサイトを利用するには、HP Passport のアカウントが必要です。アカウントをお持ちでない場合は、HP Passport のサインイン ページで **[アカウントを作成してください]** ボタンをクリックしてください。

サポート

次の HP ソフトウェアサポートの Web サイトを参照してください。<https://softwaresupport.hp.com>

このサイトでは、HP のお客様窓口のほか、HP ソフトウェアが提供する製品、サービス、およびサポートに関する詳細情報をご覧いただけます。

HP ソフトウェア サポート オンラインではセルフソルブ機能を提供しています。お客様のビジネスを管理するのに必要な対話型の技術サポートツールに、素早く効率的にアクセスできます。HP ソフトウェアサポートの Web サイトでは、次のようなことができます。

- 関心のあるナレッジドキュメントの検索
- サポートケースの登録とエンハンスメント要求のトラッキング
- ソフトウェアパッチのダウンロード
- サポート契約の管理
- HP サポート窓口の検索
- 利用可能なサービスに関する情報の閲覧
- 他のソフトウェアカスタマーとの意見交換
- ソフトウェアトレーニングの検索と登録

一部のサポートを除き、サポートのご利用には、HP Passport ユーザーとしてご登録の上、サインインしていただく必要があります。また、多くのサポートのご利用には、サポート契約が必要です。HP Passport ID を登録するには、<https://softwaresupport.hp.com> にアクセスして **[Register]** をクリックしてください。

アクセスレベルの詳細については、次の Web サイトをご覧ください。<https://softwaresupport.hp.com/web/softwaresupport/access-levels>

HP Software Solutions & Integrations and Best Practices

HP Software Solutions Now (<https://h20230.www2.hp.com/sc/solutions/index.jsp>) を参照してください。このサイトでは、HP ソフトウェアのカタログに記載された製品の説明を確認したり、情報を交換したり、ビジネス ニーズを解決することができます。

Cross Portfolio Best Practices Library (<https://hpln.hp.com/group/best-practices-hpsw>) からは、さまざまな ベスト プラクティス文書や資料にアクセスすることができます。

目次

第1章: はじめに	6
このマニュアルで使われている略語	6
関連ドキュメント	7
ライセンス	7
第2章: OMi MP for SAP のインストール	8
インストールメディア	8
インストールの前提条件	9
ハードウェア要件	9
ソフトウェア要件	9
BSM サーバでのソフトウェア要件	9
OMi サーバでのソフトウェア要件	10
インストール時のチェックリスト	10
BSM サーバ用チェックリスト	10
OMi サーバ用チェックリスト	11
Monitoring Automation 9.23 の追加のソフトウェア更新のインストール	12
分散 BSM 環境での追加のソフトウェア更新のインストール	12
BSM DPS での追加のソフトウェア更新のインストール	13
BSM GWS での追加のソフトウェア更新のインストール	14
一般的な BSM 環境での追加のソフトウェア更新のインストール	16
SAP CIT の標準設定の表示ラベルの設定	17
OMi MP for Infrastructure バージョン 1.10 のインストール	18
BSM または OMi での OMi MP for SAP バージョン 1.00 のインストール	18
Linux BSM または OMi サーバの場合	19
Windows BSM または OMi サーバの場合	20
ライセンスの適用	21
OMi MP for SAP のインストールの確認	22
第3章: 作業の開始	24
BSM コンソールでの作業の開始	24
タスク 1: BSM コンソールへのノードの追加	24
タスク 2: SAP 検出アスペクトのデプロイ	24
タスク 3: ABAP アプリケーション サーバの監視用の SAP ノードの設定	29

タスク 4: SAP ABAP 構成アスペクトのデプロイ	29
タスク 5: SAP 管理テンプレートの特定とデプロイ	30
タスク 6: SAP アスペクトのデプロイ	33
タスク 7: SAP ABAP 監視テンプレートの構成	36
OMi コンソールでの作業の開始	37
タスク 1: OMi コンソールへのノードの追加	38
タスク 2: SAP 検出アスペクトのデプロイ	38
タスク 3: ABAP アプリケーション サーバの監視用の SAP ノードの設定	42
タスク 4: SAP ABAP 構成アスペクトのデプロイ	43
タスク 5: SAP 管理テンプレートの特定とデプロイ	44
タスク 6: SAP アスペクトのデプロイ	47
タスク 7: SAP ABAP 監視テンプレートの構成	50
第 4 章: SAP ABAP アプリケーション サーバの監視の有効化とカスタマイズ	52
SAP 移送の適用	52
OMi 用の SAP ユーザの設定	55
lib ファイルのインストールメンテーション フォルダへのコピー	57
LD_LIBRARY_PATH での libgcc_s.so の設定	58
SAP ABAP 監視テンプレートの設定とデプロイ	58
ドキュメントのフィードバックを送信	60

第1章: はじめに

HP OMi Management Pack for SAP (OMi MP for SAP) では、HP Operations Manager i (OMi) と連携し、SAP 環境内の主要および詳細コンポーネントと基盤インフラストラクチャを監視できます。OMi MP for SAP には、環境内の SAP システムのパフォーマンスと可用性を監視するための以下のコンポーネントが含まれています。

- SAP 管理テンプレート
- SAP アスペクト
- SAP ABAP 監視テンプレート
- パラメータ
- ランタイム サービス モデル (RTSM) のビュー
- イベント タイプ インジケータ (ETI)
- 状況 インジケータ (HI)
- 構成アイテム (CI) と構成アイテムタイプ (CIT)
- トポロジベースのイベント相関処理 (TBEC) ルール
- ツール

注: コンポーネントの詳細は、OMi Management Pack for SAP のオンラインヘルプまたはオンラインヘルプの PDF 版を参照してください。

このマニュアルで使われている略語

名称	説明
BSM	Business Service Management
OMi	HP Operations Manager i
RTSM	ランタイム サービス モデル
MPDVD	OMi Management Pack for SAP DVD
BSM DPS	BSM データ処理サーバ

名称	説明
BSM GWS	BSM ゲートウェイ サーバ
OMi MP	HP OMi Management Pack
OMi MP for SAP	HP OMi Management Pack for SAP

関連ドキュメント

BSM および Monitoring Automation についての詳細は、BSM マニュアルを参照してください。

OMi についての詳細は、次のドキュメントを参照してください。

OMi MP for SAP の詳細は、次のドキュメントを参照してください。

- リリースノート
- オンライン ヘルプの PDF 版

ライセンス

OMi MP のライセンスは、25 ライセンスがパッケージで提供されます。アプリケーションのタイプに関わらず、OS インスタンスごとに1ライセンスを使用します。たとえば、ライセンスパックには、OMi MP for Microsoft SQL Server のライセンス5個、OMi MP for Oracle Database のライセンス10個を、サポートされているその他のアプリケーションと組み合わせて含めることができます。

Entitlement Order Number (EON) のライセンスを取得するには、www.hp.com/software/licensing にアクセスし、HP Passport の資格情報でログインします。

ライセンスの適用の詳細は、「[ライセンスの適用](#)」を参照してください。

第2章: OMi MP for SAP のインストール



この項では、BSM サーバ(Linux and Windows) および OMi サーバ(Linux and Windows) での OMi MP for SAP のインストールについて説明します。

インストールメディア

この項では、OMi MP for SAP のインストールメディアについて説明します。OMi MP for SAP は OMi MP for SAP DVD (MPDVD) および電子メディアに収録されています。MPDVD および電子メディアは、英語および英語以外のロケール環境に対応しています。ロケール要件に基づき、適切なインストールメディアを使用できます。MPDVD および電子メディアは、英語ロケール環境に対応しています。

OMi MP for SAP DVD および電子メディアには、ソフトウェアおよび製品 マニュアルが収録されています。分散環境では、すべての BSM データ処理サーバ(BSM DPS) とゲートウェイサーバ(BSM GWS) にインストールする必要があります。

次の表に、MPDVD と電子メディアに収録されているドキュメントの情報を記します。

ドキュメント	場所	目的
オンライン ヘルプ	BSM コンソールの [ヘルプ] メニューで利用できます。 BSM コンソールから、 [ヘルプ] > [BSM ヘルプ] > [Application Administration] > [Operations Management] > [OMi Management Pack for SAP] に移動します。 OMi コンソールの  メニューから使用可能。 OMi コンソールから、  > [全般的なヘルプ] > [管理ガイド] > [管理パック] > [OMi Management Pack for SAP] に移動します。	次の情報を提供します。 <ul style="list-style-type: none">• SAP 管理テンプレートの使用• SAP アスペクトおよびポリシーテンプレートの使用• HI と ETI の各インジケータおよび TBEC ルールの使用
インストールガイド	<MPDVD>\DOCUMENTATION\en	
オンライン ヘルプの PDF 版	<MPDVD>\DOCUMENTATION\en	
リリースノート	<MPDVD>\DOCUMENTATION\en	次の情報を提供します。 <ul style="list-style-type: none">• 主要な機能• インストールについて

インストールの前提条件

以下の項では、BSM (Linux および Windows) サーバおよび OMi (Linux および Windows) サーバでの OMi MP for SAP のインストールに関するハードウェアおよびソフトウェアの前提条件を一覧表示します。

ハードウェア要件

特定のハードウェア要件については、『BSM インストールガイド』を参照してください。

ソフトウェア要件

OMi MP for SAP を BSM サーバ (Windows または Linux) にインストールするためのソフトウェア要件の詳細は、「[BSM サーバでのソフトウェア要件](#)」を参照してください。

OMi MP for SAP を OMi サーバ (Windows または Linux) にインストールするためのソフトウェア要件の詳細は、「[OMi サーバでのソフトウェア要件](#)」を参照してください。

BSM サーバでのソフトウェア要件

OMi MP for SAP をインストールする前に、BSM サーバへ以下のコンポーネントをインストールし、構成する必要があります。

コンポーネント	バージョン
BSM	9.23 以降*
HP Operations Manager i	9.23 以降*
HP Monitoring Automation	9.23 以降*
OMi MP for Infrastructure	1.10

* サポートされている最新バージョンについては、サポート マトリックスを参照してください。

注: 大規模環境では、BSM 9.24 の使用をお勧めします。

管理対象ノード

コンポーネント	バージョン
Operations Agent	11.13 以降*
Java	1.6 以降

* サポートされている最新バージョンについては、サポート マトリックスを参照してください。

注: 64 ビットの HP Operations Agent では 64 ビットの JRE を、32 ビットの HP Operations Agent では 32 ビットの JRE を使用する必要があります。

OMi サーバでのソフトウェア要件

OMi MP for SAP をインストールする前に、BSM サーバへ以下のコンポーネントをインストールし、構成する必要があります。

コンポーネント	バージョン
HP Operations Manager i	9.23 以降*
OMi MP for Infrastructure	1.10

* サポートされている最新バージョンについては、サポート マトリックスを参照してください。

注: 大規模環境では、BSM 9.24 の使用をお勧めします。

管理対象ノード

コンポーネント	バージョン
Operations Agent	11.13 以降*
Java	1.6 以降

* サポートされている最新バージョンについては、サポート マトリックスを参照してください。

注: 64 ビットの HP Operations Agent では 64 ビットの JRE を、32 ビットの HP Operations Agent では 32 ビットの JRE を使用する必要があります。

インストール時のチェックリスト

OMi MP for SAP を BSM サーバにインストールする場合は、「[BSM サーバ用チェックリスト](#)」を参照してください。

OMi MP for SAP を OMi サーバにインストールする場合は、「[OMi サーバ用チェックリスト](#)」を参照してください。

BSM サーバ用チェックリスト

OMi MP for SAP のインストールでは、次の表にまとめたタスクを指定の順序で事前に実行します。

タスク	参照先
BSM のインストールに必要な前提条件のチェック	『BSM インストールガイド』の「一般的な前提条件」を参照してください。
BSM バージョン 9.23 以降のインストール	『BSM インストールガイド』を参照してください。
Monitoring Automation バージョン 9.23 以降のインストール	『Monitoring Automation for HP Operations Manager i インストールガイド』の「インストールの前提条件」と「BSM サーバーでの Monitoring Automation のインストールと構成」の章を参照してください。
Monitoring Automation のインストールの確認	『Monitoring Automation for HP Operations Manager i インストールガイド』の「Monitoring Automation のインストールの確認と操作」の章を参照してください。
OMi MP for Infrastructure バージョン 1.00 のクリーンアップ	OMi MP for Infrastructure バージョン 1.00 がすでにインストールされている場合は、『OMi Management Pack for Infrastructure インストールガイド』の「OMi MP for Infrastructure バージョン 1.00 の削除」を参照してください。
Monitoring Automation 9.23 の追加のソフトウェア更新のインストール	「Monitoring Automation 9.23 の追加のソフトウェア更新のインストール」 の項を参照してください。
OMi MP for Infrastructure 1.10 のインストール	『OMi Management Pack for Infrastructure インストールガイド』の「OMi MP for Infrastructure 1.10 のインストール」を参照してください。
OMi MP for SAP 1.00 のインストール	「BSM または OMi での OMi MP for SAP バージョン 1.00 のインストール」 の項を参照してください。
ライセンスの適用	「ライセンスの適用」 の項を参照してください。
SAP CIT の標準設定の表示ラベルの設定	SAP ABAP アプリケーション サーバと SAP J2EE アプリケーション サーバ CI の標準設定の表示ラベルの一部として名前を追加する必要があります。

管理対象ノード

タスク	参照先
HP Operations Agent 11.13 のインストール	『HP Operations Agent および HP Operations Smart Plug-ins for Infrastructure インストールガイド』の「Installing the HP Operations agent 11.13 (HP Operations Agent 11.13 のインストール)」を参照してください。

OMi サーバ用チェックリスト

OMi MP for SAP のインストールでは、次の表にまとめたタスクを指定の順序で事前に実行します。

タスク	参照先
OMi MP for Infrastructure バージョン 1.00 のクリーンアップ	OMi MP for Infrastructure バージョン 1.00 がすでにインストールされている場合は、『OMi Management Pack for Infrastructure インストールガイド』の「OMi MP for Infrastructure バージョン 1.00 の削除」を参照してください。
OMi MP for Infrastructure 1.10 のインストール	『OMi Management Pack for Infrastructure インストールガイド』の「OMi MP for Infrastructure 1.10 のインストール」を参照してください。
OMi MP for SAP 1.00 のインストール	「BSM または OMi での OMi MP for SAP バージョン 1.00 のインストール」 の項を参照してください。
ライセンスの適用	「ライセンスの適用」 の項を参照してください。
SAP CIT の標準設定の表示ラベルの設定	SAP ABAP アプリケーション サーバと SAP J2EE アプリケーション サーバCI の標準設定の表示ラベルの一部として名前を追加する必要があります。

管理対象ノード

タスク	参照先
HP Operations Agent 11.13 のインストール	『HP Operations Agent および HP Operations Smart Plug-ins for Infrastructure インストールガイド』の「Installing the HP Operations agent 11.13 (HP Operations Agent 11.13 のインストール)」を参照してください。

Monitoring Automation 9.23 の追加のソフトウェア更新のインストール

注: BSM 9.23 に限り、Monitoring Automation 9.23 の追加のソフトウェア更新をインストールする必要があります。

OMi MP for SAP をインストールする前に、Monitoring Automation 9.23 の追加のソフトウェア更新をインストールする必要があります。Monitoring Automation 9.24 以降のバージョンを使用している場合、この追加のソフトウェア更新のインストールは不要です。Monitoring Automation 9.23 の追加のソフトウェア更新はMPDVD に収録されています。

分散 BSM 環境での追加のソフトウェア更新のインストール

この項では、分散 BSM 環境でのソフトウェア更新のインストールの詳細について説明します。分散 BSM 環境では、BSM DPS と BSM GWS を異なるシステムで使用できます。追加のソフトウェア更新は、BSM DPS と BSM GWS の両方にインストールする必要があります。

分散 BSM 環境ではない場合、次の項をスキップして「一般的な BSM 環境での追加のソフトウェア更新のインストール」を参照してください。

BSM DPS での追加のソフトウェア更新のインストール

分散 BSM 環境で動作している BSM DPS で追加のソフトウェア更新をインストールするには、次の手順を実行します。

1. 次のコマンドを実行して、現在の opr-config-content-server.war ファイルのバージョンをチェックします。

Linux の場合:

```
cd /opt/HP/BSM/opr/webapps  
  
/opt/HP/BSM/opr/support/what.sh ./opr-config-content-server.war
```

Windows の場合:

BSM がインストールされているドライブに移動します。

```
cd /d %TOPAZ_HOME%\opr\webapps  
  
cscript %TOPAZ_HOME%\opr\support\what.vbs opr-config-content-server.war
```

注: バージョン番号が 09.23.174 より下である場合、次の手順に進んでください。バージョン番号が 09.23.174 以上である場合は、現在の BSM インストールに必要なソフトウェア更新が既に含まれているため、この項の残りのステップは実行不要です。

2. 次のコマンドを実行して、BSM DPS で実行中の BSM サービスを停止します。

Linux の場合:

```
/opt/HP/BSM/scripts/run_hpbsm stop
```

Windows の場合:

```
%TOPAZ_HOME%\bin\SupervisorStop.bat
```

3. 次のフォルダにある既存の opr-config-content-server.war ファイルをバックアップします。

Linux の場合:

```
/opt/HPBSM/opr/webapps
```

Windows の場合:

```
%TOPAZ_HOME%\opr\webapps
```

opr-config-content-server.war ファイルを別のフォルダにバックアップする必要があります。

4. HPOprMA_update.zip を一時フォルダに展開し、opr-config-content-server.war を次のフォルダにコピーします。

Linux の場合:

```
/opt/HPBSM/opr/webapps
```

Windows の場合:

```
%TOPAZ_HOME%\opr\webapps
```

5. 次のコマンドを実行して、ソフトウェア更新から新しい war ファイルをデプロイします。

Linux の場合:

```
/opt/HP/BSM/opr/bin/oprcfg-configuration.sh -setup omi -noGW
```

Windows の場合:

```
cscript %TOPAZ_HOME%\opr\bin\oprcfg-configuration.vbs -setup omi -noGW
```

6. 次のコマンドを実行して、BSM サービスを開始します。

Linux の場合:

```
/opt/HP/BSM/scripts/run_hpbsm start
```

Windows の場合:

```
%TOPAZ_HOME%\bin\SupervisorStart.bat
```

BSM GWS での追加のソフトウェア更新のインストール

分散 BSM 環境で動作している BSM GWS で追加のソフトウェア更新をインストールするには、次の手順を実行します。

1. 次のコマンドを実行して、現在の opr-config-server.war ファイルのバージョンをチェックします。

Linux の場合:

```
cd /opt/HP/BSM/opr/webapps
```

```
/opt/HP/BSM/opr/support/what.sh ./opr-config-server.war
```

Windows の場合:

BSM がインストールされているドライブに移動します。

```
cd /d %TOPAZ_HOME%\opr\webapps
```

```
cscript %TOPAZ_HOME%\opr\support\what.vbs opr-config-server.war
```

注: バージョン番号が 09.23.174 より下である場合、次の手順に進んでください。バージョン番号が 09.23.174 以上である場合は、現在の BSM インストールに必要なソフトウェア更新が既に含まれているため、この項の残りのステップは実行不要です。

2. 次のコマンドを実行して、BSM GWS で実行中の BSM サービスを停止します。

Linux の場合:

```
/opt/HP/BSM/scripts/run_hpbsm stop
```

Windows の場合:

```
%TOPAZ_HOME%\bin\SupervisorStop.bat
```

3. 次のフォルダにある既存の opr-config-server.war ファイルをバックアップします。

Linux の場合:

```
/opt/HPBSM/opr/webapps
```

Windows の場合:

```
%TOPAZ_HOME%\opr\webapps
```

opr-config-server.war ファイルを別のフォルダにバックアップする必要があります。

4. HPOprMA_update.zip を一時フォルダに展開し、opr-config-server.war を次のフォルダにコピーします。

Linux の場合:

```
/opt/HPBSM/opr/webapps
```

Windows の場合:

```
%TOPAZ_HOME%\opr\webapps
```

5. 次のコマンドを実行して、ソフトウェア更新から新しい war ファイルをデプロイします。

Linux の場合:

```
/opt/HP/BSM/opr/bin/oprcfg-configuration.sh -setup omi
```

Windows の場合:

```
cscript %TOPAZ_HOME%\opr\bin\oprcfg-configuration.vbs -setup omi
```

6. 次のコマンドを実行して、BSM サービスを開始します。

Linux の場合:

```
/opt/HP/BSM/scripts/run_hpbsm start
```

Windows の場合:

```
%TOPAZ_HOME%\bin\SupervisorStart.bat
```

一般的な BSM 環境での追加のソフトウェア更新のインストール

一般的な BSM 環境では、BSM DPS と BSM GWS を同じシステムで使用できます。一般的な BSM 環境で追加のソフトウェア更新をインストールするには、次の手順を実行します。

1. 次のコマンドを実行して、現在の opr-config-server.war のバージョンをチェックします。

Linux の場合:

```
cd /opt/HP/BSM/opr/webapps  
  
/opt/HP/BSM/opr/support/what.sh ./opr-config-server.war
```

Windows の場合:

BSM がインストールされているドライブに移動します。

```
cd /d %TOPAZ_HOME%\opr\webapps  
  
cscript %TOPAZ_HOME%\opr\support\what.vbs opr-config-server.war
```

注: バージョン番号が 09.23.174 より下である場合、次の手順に進んでください。バージョン番号が 09.23.174 以上である場合は、現在の BSM インストールに必要なソフトウェア更新が既に含まれているため、この項の残りのステップは実行不要です。

2. 次のコマンドを実行して、BSM サーバで実行中の BSM サービスを停止します。

Linux の場合:

```
/opt/HP/BSM/scripts/run_hpbsm stop
```

Windows の場合:


```
%TOPAZ_HOME%\bin\SupervisorStop.bat
```

3. 次のフォルダにある既存の opr-config-server.war ファイルをバックアップします。

Linux の場合:

```
/opt/HPBSM/opr/webapps
```

Windows の場合:

```
%TOPAZ_HOME%\opr\webapps
```

opr-config-server.war ファイルを別のフォルダにバックアップする必要があります。

4. HPOprMA_update.zip を一時フォルダに展開し、opr-config-server.war を次のフォルダにコピーします。

Linux の場合:

```
/opt/HPBSM/opr/webapps
```

Windows の場合:

```
%TOPAZ_HOME%\opr\webapps
```

5. 次のコマンドを実行して、ソフトウェア更新から新しい war ファイルをデプロイします。

Linux の場合:

```
/opt/HP/BSM/opr/bin/oprcfg-configuration.sh -setup omi
```

Windows の場合:

```
cscript %TOPAZ_HOME%\opr\bin\oprcfg-configuration.vbs -setup omi
```

6. 次のコマンドを実行して、BSM サービスを開始します。

Linux の場合:

```
/opt/HP/BSM/scripts/run_hpbsm start
```

Windows の場合:

```
%TOPAZ_HOME%\bin\SupervisorStart.bat
```

SAP CIT の標準設定の表示ラベルの設定

SAP ABAP アプリケーション サーバと SAP J2EE アプリケーション サーバ CI の標準設定の表示ラベルの一部として名前を追加する必要があります。

アクセスするには、以下の操作を行います。

[管理] > [RTSM 管理] > [CI タイプ マネージャ]

SAP ABAP アプリケーション サーバの標準設定の表示ラベルを設定するには、以下の手順を実行します。

1. [CI タイプ] ペインに移動して、ドロップダウンメニューから **[CI タイプ]** を選択します。

[管理対象オブジェクト] > [ConfigurationItem] > [InfrastructureElement] > [RunningSoftware] > [ApplicationServer] > [SapApplicationServer] に移動します。

2. SAP アプリケーション サーバのタイプを選択します。

ABAP の場合:

SAP ABAP アプリケーション サーバ

J2EE の場合:

SAP J2EE アプリケーション サーバ

3. 右ペインで、**[インジケータ]** を選択します。[詳細] ペインが開きます。
4. [詳細] ペインで名前 を追加します。

OMi MP for Infrastructure バージョン 1.10 のインストール

OMi MP for Infrastructure バージョン 1.10 のインストールの詳細は、『OMi Management Pack for Infrastructure インストールガイド』の「BSM での OMi MP for Infrastructure バージョン 1.10 のインストール」の章を参照してください。

BSM または OMi での OMi MP for SAP バージョン 1.00 のインストール

OMi MP for SAP を BSM サーバ(Linux または Windows) または OMi サーバ(Linux または Windows) にインストールするには、MPDVD を使用します。この項では、OMi MP for SAP を BSM サーバまたは OMi サーバにインストールする手順について説明します。

注: BSM 分散環境では、OMi MP for SAP がすべての BSM サーバ(BSM DPS および BSM GWS) にインストールされている必要があります。インストールを進める前に、Monitoring Automation が実行

中であることを確認する必要があります。ステータスを確認するには、BSM コンソールにログオンし、**[管理]>[セットアップと保守]>[サーバデプロイメント]**に移動して、Monitoring Automation が有効かどうかを確認します。

Linux BSM または OMi サーバの場合

OMi MP for SAP を Linux BSM/OMi サーバにインストールするには、以下の手順を実行します。

1. root ユーザとしてログオンします。
2. コマンド `umask 022` を入力して、`umask` を設定します。
3. コマンド `mkdir /<mount_point>` を入力して、DVD または電子メディアをマウントするディレクトリを作成します。

例: `mkdir /dvdrom`

4. DVD をディスクドライブに挿入するか、電子メディアのインストールパッケージをコピーし、次のコマンドを使用してマウントします。

DVD の場合: `mount /dev/<dvdrom_drive_name> /<mount_point>`

電子メディアの場合: `mount -o loop <e-media> /<mount_point>`

5. ディレクトリを `/<mount_point>` に変更します。
6. 次のコマンドを実行します。

```
./mpinstall.sh -i [-h|help]
```

次の表を参照して、ロケールに応じたコマンドを実行します。

DVD	MP ロケールが BSM ロケールと同じ場合	MP ロケールが BSM ロケールと異なる場合
英語の DVD	<code>./mpinstall.sh -i</code>	<code>./mpinstall.sh -i</code>
英語以外の DVD	<code>./mpinstall.sh -i</code>	<code>./mpinstall.sh -i -locale <mplocale></code>

例: BSM が簡体中国語ロケールではない場合に、簡体中国語ロケールで OMi MP for SAP をインストールするには、次のコマンドを指定します。

```
./mpinstall.sh -i -locale zh_CN
```

注: 次のコマンド オプションを使用できます。

```
mpinstall.sh -i [-locale <MP ロケール>] [-h|help]
```

-i: Management Pack をインストールします。

-locale: インストールするロケール専用の Management Pack。

-h|-help: ヘルプメッセージを表示します。

<MP ロケール> は次のように指定できます。

- zh_CN: 簡体中国語ロケール
- ja: 日本語ロケール

7. エンドユーザ使用許諾契約書 (EULA) に同意する場合は、**Yes** または **Y** と入力します。使用許諾契約書に同意しない場合は、**No** または **N** と入力します。

注: 使用許諾契約書 (EULA) に同意しない場合、OMi MP for SAP はインストールされません。

インストールが完了すると、HP OMi Management Pack for SAP のインストールが終了したことを示すメッセージが表示されます。

Windows BSM または OMi サーバの場合

OMi MP for SAP を Windows BSM または OMi サーバにインストールするには、以下の手順を実行します。x

1. DVD をディスクドライブに挿入するか、電子メディアのインストールパッケージをコピーし、展開します。
2. コマンド プロンプトを開き、<DVD-ROM> または電子メディアのディレクトリに移動して、次のコマンドを実行します。

```
cscript /nologo mpinstall.vbs -i [-locale <mplocale>] [-h|-help]
```

次の表を参照して、ロケールに応じたコマンドを実行します。

DVD	MP ロケールが BSM ロケールと同じ場合	MP ロケールが BSM ロケールと異なる場合
英語の DVD	cscript /nologo mpinstall.vbs -i	cscript /nologo mpinstall.vbs -i

DVD	MP ロケールが BSM ロケールと同じ場合	MP ロケールが BSM ロケールと異なる場合
英語以外の DVD	<code>cscript /nologo mpinstall.vbs -i</code>	<code>cscript /nologo mpinstall.vbs -i -locale <MP のロケール></code>

例: BSM が簡体中国語ロケールではない場合に、簡体中国語ロケールで OMi MP for SAP をインストールするには、次のコマンドを実行します。

```
cscript /nologo mpinstall.vbs -i -locale zh_CN
```

注: 次のコマンド オプションを使用できます。

```
cscript /nologo mpinstall.vbs -i [-locale <MP ロケール>] [-h|help]
```

-i: Management Pack をインストールします。

-locale: インストールするロケール専用の Management Pack。

-h|-help: ヘルプメッセージを表示します。

<MP ロケール> は次のように指定できます。

- zh_CN: 簡体中国語ロケール
- ja: 日本語ロケール

3. エンドユーザ使用許諾契約書 (EULA) に同意する場合は、**Yes** または **Y** と入力します。使用許諾契約書に同意しない場合は、**No** または **N** と入力します。

インストールが完了すると、HP OMi Management Pack for SAP のインストールが終了したことを示すメッセージが表示されます。

ライセンスの適用

この項では、ライセンスの更新とアクティブ化について説明します。

注: ライセンスの取得の詳細は、「[ライセンス](#)」を参照してください。


新しいライセンスでデプロイメントを更新し、ライセンスをアクティブ化するには、次の手順を実行します。

1. [ライセンス管理] に移動します。

BSM で [管理] > [プラットフォーム] > [セットアップと保守] > [ライセンス管理] をクリックします。

OMi では、[管理] > [セットアップと保守] > [ライセンス管理] をクリックします。

ライセンス管理では、名前、ライセンスのタイプ、期限切れまでの残り日数、有効期限、ライセンス数などの情報が表示されます。

2.  をクリックして [ライセンスの追加] ダイアログ ボックスを開き、使用する .dat ファイルを検索します。

注: .dat ファイルは www.hp.com/software/licensing からダウンロードできます。

注: インストール後のライセンスアクティブ化には遅延があります。ライセンスが自動的にアクティブ化されない場合、ステップ 3 を実行する必要があります。

3. (オプション) ライセンスをアクティブ化するには、[ライセンス管理] ウィンドウの下にある [サーバデプロイメント] リンクをクリックします。

OMi MP for SAP のインストールの確認

この項では、Linux および Windows BSM サーバでの OMi MP for SAP のインストールの確認について説明します。

OMi MP for SAP のインストールは、次の手順で確認できます。

- 以下の場所で BSM GWS、BSM DPS、および BSM の一般サーバのログファイルのエラーをチェックします。

Linux の場合:

/opt/HP/BSM/log/mpinstall.log

Windows の場合:

%TOPAZ_HOME%\log\mpinstall.log

- 次の場所をチェックします。

BSM では、[管理] > [オペレーション管理] > [セットアップ] > [コンテンツ パック] をクリックします。

[コンテンツ パック定義] ペインに、**OMi Management Pack for SAP** が表示されている必要があります。

OMi では、[管理] > [セットアップと保守] > [コンテンツ パック] をクリックします。

[コンテンツパック定義] ペインに、**OMi Management Pack for SAP** が表示されている必要があります。

- BSM サーバにインストールされている OMi MP をリストするには、以下のコマンドを実行します。

Linux の場合:

```
/opt/HP/BSM/bin/ContentManager.sh -username <BSMusername> -password <BSMpwd> -l
```

Windows の場合:

```
%TOPAZ_HOME%\bin\ContentManager.bat -username <BSMusername> -password <BSMpwd> -l
```

注: ContentManager.bat または ContentManager.sh コマンドで、コンテンツパックの名前とバージョンがリスト表示されます。

注: 次の場所に、BSM GWS と BSM DPS の両方の OMi ログファイルがあります。

Linux の場合: /opt/HP/BSM/log/EJBContainer/opr-configserver.log

Windows の場合: %TOPAZ_HOME%\log\EJBContainer\opr-configserver.log

第3章: 作業の開始

ABAPとJavaアプリケーションサーバインスタンスで構成されるビジネスクリティカルなSAP環境を監視したいと考えています。

SAP環境には、ABAPまたはJava、あるいはその両方のアプリケーションサーバインスタンスを持つことができます。ABAPまたはJava、あるいはその両方のアプリケーションサーバの可用性とパフォーマンスをチェックし、さらに、SAP環境の基本的な機能も監視したいと考えています。

BSMコンソールでの作業の開始の詳細については、「[BSMコンソールでの作業の開始](#)」を参照してください。

OMiコンソールでの作業の開始の詳細については、「[OMiコンソールでの作業の開始](#)」を参照してください。

BSMコンソールでの作業の開始

ABAPとJavaアプリケーションサーバインスタンスで構成されるビジネスクリティカルなSAP環境を監視したいと考えています。


SAP環境には、ABAPまたはJava、あるいはその両方のアプリケーションサーバインスタンスを持つことができます。ABAPまたはJava、あるいはその両方のアプリケーションサーバの可用性とパフォーマンスをチェックし、さらに、SAP環境の基本的な機能も監視したいと考えています。

タスク 1: BSMコンソールへのノードの追加

監視を始める前に、BSMコンソールにSAPノードを追加する必要があります。

1. [オペレーション管理の管理] から [モニタ対象ノード] マネージャを開きます。

[管理] > [オペレーション管理] > [セットアップ] > [モニタ対象ノード]

2. [ノードビュー] ペインで [事前定義済みのノードフィルタ] > [モニタ対象ノード] をクリックし、 をクリックしてから、[Computer] > [Windows] または [Unix] を選択します。[モニタ対象ノードの新規作成] ダイアログボックスが表示されます。

3. ノードの [プライマリDNS名]、[IPアドレス]、[オペレーティングシステム]、[プロセッサアーキテクチャ] を指定し、[OK] をクリックします。

タスク 2: SAP 検出アスペクトのデプロイ

追加したSAP管理対象ノード上のSAPCIを検出するには、SAP検出アスペクトをデプロイする必要があります。OMi MP for SAPにはABAPとJ2EEアプリケーションサーバ用の2つの検出アスペクトセット

があります。検出する CI のタイプに対応する検出アスペクトをデプロイできます。

SAP J2EE 検出アスペクトのデプロイ


SAP ランドスケープ内の J2EE アプリケーション サーバを検出するには、以下の手順を実行します。

1. [管理テンプレートおよびアスペクト] ペインを開きます。

[管理] > [オペレーション管理] > [モニタリング] > [管理テンプレートおよびアスペクト]

2. [構成フォルダ] ペインで、次を選択します。

[構成フォルダ] > [ERP 管理] > [SAP NetWeaver アプリケーション サーバ] > [JAVA アスペクト]

3. [Java アスペクト] フォルダで **SAP J2EE 検出アスペクト** を選択し、 をクリックして [割り当てとデプロイ] ウィザードを開きます。
4. **[構成アイテム]** タブで、SAP J2EE 検出アスペクトをデプロイする SAP 管理対象ノードを選択します。
5. **[次へ]** をクリックして **[必要なパラメータ]** タブに進みます。

注: この割り当ての編集にパラメータの指定は不要です。

6. **[次へ]** をクリックして **[すべてのパラメータ]** に進みます。

注: この割り当てに使用できるパラメータはありません。

7. **[次へ]** をクリックします。
8. オプション: 割り当てを直ちに有効化しない場合は、**[割り当てオブジェクトの有効化]** チェックボックスを外します。**[割り当ておよび調整]** ペインを使用して、後で割り当てを有効化できます。
9. **[完了]** をクリックします。

SAP ABAP 検出アスペクトのデプロイ


SAP ランドスケープ内の SAP ABAP アプリケーション サーバを検出するには、以下の手順を実行します。

1. [管理テンプレートおよびアスペクト] ペインを開きます。

[管理] > [オペレーション管理] > [モニタリング] > [管理テンプレートおよびアスペクト]

2. [構成フォルダ] ペインで、次を選択します。

[構成フォルダ] > [ERP 管理] > [SAP NetWeaver アプリケーション サーバ] > [ABAP アスペクト]

3. [ABAP アスペクト] フォルダーで **SAP ABAP 検出** アスペクトを選択し、 をクリックして [割り当てとデプロイ] ウィザードを開きます。
4. **構成アイテム** タブで、SAP ABAP 検出アスペクトをデプロイする SAP 管理対象ノードをクリックします。
5. **[次へ]** をクリックして **[必要なパラメータ]** タブに進みます。

注: この割り当ての編集にパラメータの指定は不要です。

6. **[次へ]** をクリックして **[すべてのパラメータ]** に進みます。

注: この割り当てに使用できるパラメータはありません。

7. **[次へ]** をクリックします。
8. オプション: 割り当てを直ちに有効化しない場合は、**[割り当てオブジェクトの有効化]** チェックボックスを外します。[割り当ておよび調整] ペインを使用して、後で割り当てを有効化できます。
9. **[完了]** をクリックします。

SAP ABAP リモート構成アスペクトのデプロイ

Operations Agent (OA) をインストールしていないノード上で SAP ABAP アプリケーション サーバを監視する場合は、SAP ABAP リモート構成アスペクトをデプロイできます。



SAP ABAP リモート構成アスペクトをデプロイするには、以下の手順を実行します。

1. [管理テンプレートおよびアスペクト] ペインを開きます。

[管理] > [オペレーション管理] > [モニタリング] > [管理テンプレートおよびアスペクト]

2. [構成フォルダ] ペインで、次を選択します。

[構成フォルダ] > [ERP 管理] > [SAP NetWeaver アプリケーション サーバ] > [ABAP アスペクト]

3. [ABAP アスペクト] フォルダーで **SAP ABAP リモート構成** アスペクトを選択し、 をクリックして [割り当てとデプロイ] ウィザードを開きます。
4. **構成アイテム** タブで監視ホスト (エージェントをインストールしているホスト) として使用する SAP 管理対象ノードをクリックして **[次へ]** をクリックします。 **[必要なパラメータ]** タブが開きます。
5. **[必要なパラメータ]** タブで、OMi MP for SAP を使用して監視するリモート SAP セントラルインスタンスノードの詳細を指定する必要があります。
 - a. リストの **[ホスト名と SID 付きの SAP ABAP アプリケーション サーバ インスタンス]** パラメータを選択して、 をクリックします。 [パラメータの編集: ホスト名と SID 付きの SAP ABAP アプリケー



ション サーバのインスタンス番号] ダイアログ ボックスが開きます。

- b. 次の例で示すように、リモート SAP ABAP アプリケーション サーバのホスト名とSID 付きで **[SAP ABAP アプリケーション サーバのセントラル インスタンス]** を指定します。


例:

testnode.hp.com_T01_00

ここで、testnode.hp.com は完全修飾された SAP リモート ホスト名で、T01 は SAP リモート ホストのSID、00 は SAP インスタンス番号です。

- c. **[OK]** をクリックします。
 - d. リストの **[SAP ABAP アプリケーション サーバクライアント]** パラメータを選択して、 をクリックします。[パラメータの編集: SAP ABAP アプリケーション サーバクライアント] が開きます。
 - e. **[値]** をクリックし、リモート SAP ABAP アプリケーション サーバのクライアント番号を指定して、**[OK]** をクリックします。
6. **[次へ]** をクリックして **[すべてのパラメータ]** に進みます。パラメータのデフォルト値を変更するには、パラメータを選択して  をクリックします。[パラメータの編集] ダイアログ ボックスが開きます。**[値]** をクリックして値を指定し、**[OK]** をクリックします。たとえば、[インスタンスパラメータの編集] ダイアログ ボックスから、リモート SAP ABAP アプリケーション サーバのデフォルトのユーザ名とパスワードを変更できます。[インスタンスパラメータの編集] ダイアログ ボックスから、監視するリモート ホストを複数追加することもできます。

[インスタンスパラメータの編集] ダイアログ ボックスから SAP リモート ノードを追加するには、以下の手順を実行します。

- a. [インスタンス値] ペインで、 をクリックします。[パラメータの編集] ダイアログ ボックスが開きます。
- b. 次の例で示すように、リモート SAP ABAP アプリケーション サーバのホスト名とSID を付けて SAP ABAP アプリケーション サーバインスタンスを指定します。

例:

testnode.hp.com_T01_00

ここで、testnode.hp.com は完全修飾された SAP リモート ホスト名で、T01 は SAP リモート ホストのSID、00 は SAP インスタンス番号です。

OMi MP for SAP では、リモート SAP ABAP アプリケーション サーバの資格情報を以下の組み合わせで提供します。

- i. リモート ホスト名 (完全修飾ホスト名)、単一の SAP SID、および複数の ABAP アプリケーション サーバインスタンス。

例:

testnode.hp.com_T01_00

testnode.hp.com_T01_01

testnode.hp.com_T01_03

- ii. リモート ホスト名 (完全修飾ホスト名)、複数の SAP SID および ABAP アプリケーション サーバインスタンス。

例:

testnode.hp.com_T01_00

testnode.hp.com_T02_00

testnode.hp.com_T03_00


- iii. 複数のリモート ホスト名 (完全修飾ホスト名)、SAP SID および ABAP アプリケーション サーバインスタンス。

例:

testnode.hp.com_T01_00

testnode01.hp.com_T01_00

testnode02.hp.com_T01.3_00

注: [すべてのパラメータ] タブでは、パラメータのデフォルト値を上書きできます。各パラメータの値は、管理テンプレートレベルで指定できます。デフォルトでは、エキスパート パラメータとして定義されているパラメータは表示されません。エキスパート パラメータを表示するには、 [エキスパート パラメータの表示] をクリックします。

7. **[次へ]** をクリックします。
8. オプション: 割り当てを直ちに有効化しない場合は、**[割り当てオブジェクトの有効化]** チェックボックスを外します。**[割り当ておよび調整]** ペインを使用して、後で割り当てを有効化できます。
9. **[完了]** をクリックします。

注: SAP 検出アスペクトをデプロイした後、BSM コンソールに SAP CI が表示されていることを確認する必要があります。検出された CI を表示するには、**[BSM コンソール] > [MyBSM] > [トップビュー]** (メニューバーのドロップダウンリストから) に移動します。**SAP_Deployment** ビューを選択します。トップビューに SAP CI が表示されています。**SAP_ABAP_Deployment** と **SAP_J2EE_Deployment** ビューを選択し、それぞれの SAP アプリケーション サーバ CI を表示します。

タスク 3: ABAP アプリケーション サーバの監視用の SAP ノードの設定

SAP ABAP アプリケーション サーバを監視するために OMi MP for SAP を有効にするには、次のタスクを実行する必要があります。

1. OMi MP for SAP 移送を適用する

OMi MP for SAP 移送ファイルをインストールメンテーション フォルダから、各 SAP NetWeaver セントラル インスタンスの SAP 移送ディレクトリにコピーし、これらのファイルを適用する必要があります。

2. OMi 用の SAP ユーザを設定する

OMi MP for SAP アプリケーション、モニタ、アクションが SAP にアクセスする必要がある場合に OMi MP for SAP が SAP にログオンできるように、OMi 用の SAP ユーザを設定する必要があります。

3. lib ファイルをインストールメンテーション フォルダにコピーする

SAP RFC ライブラリファイルを SAP 管理対象ノード上のインストールメンテーション フォルダにコピーする必要があります。

4. Solaris 管理対象ノードの場合、LD_LIBRARY_PATH を 32 ビットの libgcc_s.so パスに設定する

Solaris 管理対象ノードを監視する場合、LD_LIBRARY_PATH を 32 ビットの libgcc_s.so パスに設定する必要があります。

ABAP アプリケーション サーバの監視用の SAP ノードの設定の詳細については、『OMi MP for SAP インストールガイド』を参照してください。

タスク 4: SAP ABAP 構成アスペクトのデプロイ

注: SAP ABAP 管理テンプレートをデプロイする前に、SAP ABAP 構成アスペクトをデプロイする必要があります。


SAP ABAP アプリケーション サーバに SAP ABAP 構成アスペクトをデプロイするには、以下の手順を実行します。

1. [管理テンプレートおよびアスペクト] ペインを開きます。


[管理] > [オペレーション管理] > [モニタリング] > [管理テンプレートおよびアスペクト]


2. [構成フォルダ] ペインで、次を選択します。

[構成フォルダ] > [ERP 管理] > [SAP NetWeaver アプリケーション サーバ] > [SAP ABAP アスペクト]

- [ABAP アスペクト] フォルダーで **SAP ABAP 構成** アスペクトを選択し、 をクリックして [割り当てとデプロイ] ウィザードを開きます。
- [**構成アイテム**] タブで、SAP アスペクトをデプロイする SAP ABAP アプリケーション サーバセントラル インスタンスをクリックします。SAP セントラル インスタンスとアプリケーション サーバをサポートする SAP ABAP アスペクトの詳細については、「デプロイメント シナリオ」の「OMi MP for SAP ABAP 監視テンプレート設定ファイル」の表を参照してください。

注: SAP ABAP リモート構成アスペクトの一部として設定される SAP ABAP アプリケーション サーバを選択しないでください。詳細については、「[SAP ABAP リモート構成アスペクトのデプロイ](#)」を参照してください。

- [**次へ**] をクリックします。[**必要なパラメータ**] タブが開きます。
- [**SAP ABAP アプリケーション サーバクライアント**] /パラメータを選択し、 をクリックします。[パラメータの編集: SAP ABAP アプリケーション サーバクライアント] が開きます。
- [**値**] をクリックして値を指定し、[**OK**] をクリックします。
- [**次へ**] をクリックして [すべてのパラメータ] に進みます。[**すべてのパラメータ**] タブでパラメータのデフォルト値を編集できます。

注: SAP ABAP アプリケーション サーバの必須パラメータのデフォルト値を変更するには、パラメータを選択して  をクリックします。[パラメータの編集] ダイアログボックスが開きます。[**値**] をクリックして値を指定し、[**OK**] をクリックします。

- [**次へ**] をクリックします。
- オプション: 割り当てを直ちに有効化しない場合は、[**割り当てオブジェクトの有効化**] チェックボックスを外します。[割り当ておよび調整] ペインを使用して、後で割り当てを有効化できます。
- [**完了**] をクリックします。

タスク 5: SAP 管理テンプレート の特定とデプロイ

Monitoring Automation for Composite Applications ライセンスを使用している場合、OMi MP for SAP 管理テンプレートを SAP CI にデプロイできます。Monitoring Automation for Servers ライセンスを使用している場合、スキップして「[タスク 6: SAP アスペクトのデプロイ](#)」に進みます。

注: CI が SiteScope や DDM などの他のソースによって既に設定されていても、SAP 検出アスペクトのデプロイは**必要**です。詳細については、「[タスク 2: SAP 検出アスペクトのデプロイ](#)」を参照してください。

OMi MP for SAP には、お使いの SAP ランドスケープ内で ABAP と J2EE アプリケーション サーバを監視するための 2 つの管理テンプレートとアスペクト セットがあります。OMi MP for SAP には SAP ABAP 監視テンプレート セットも含まれています。これらのテンプレートを設定して、お使いの SAP 環境内の ABAP アプリケーション サーバのさまざまな機能に関する情報を収集するために定期的に行います。ABAP 監視テンプレートについての詳細は、オンライン ヘルプを参照してください。OMi MP for SAP

SAP 管理テンプレートのデプロイ

SAP 管理テンプレートをデプロイする前に、以下の推奨事項に従って、SAP 環境に適したテンプレートを特定する必要があります。

- 状況、ダンプステータス、バッチ ジョブ状況、移送、ユーザ状況、プロセスとディスパッチャ、ワークプロセス、セキュリティ、RFC 宛先といったコンポーネントで構成される SAP ABAP アプリケーション サーバの基本的な機能を監視する場合、**基本 SAP ABAP 管理テンプレート**をデプロイできます。
- SAP ABAP アプリケーション サーバ環境の詳細な監視を行う場合は、**詳細 SAP ABAP 管理テンプレート**をデプロイできます。
- SAP J2EE 要求、システムとアプリケーション スレッド プール、メモリとトランザクション ステータスといったコンポーネントで構成される SAP J2EE アプリケーション サーバの基本的な機能を監視する場合、**基本 SAP J2EE 管理テンプレート**をデプロイできます。
- SAP J2EE アプリケーション サーバ環境の詳細な監視を行う場合は、**詳細 SAP J2EE 管理テンプレート**をデプロイできます。

OMi MP for SAP 管理テンプレートをデプロイするには、以下の手順に従います。

1. [管理テンプレートおよびアスペクト] ペインを開きます。

[管理] > [オペレーション管理] > [モニタリング] > [管理テンプレートおよびアスペクト]


2. [構成フォルダ] ペインで、次を選択します。

ABAP アプリケーション サーバの場合:

[構成フォルダ] > [ERP 管理] > [SAP NetWeaver アプリケーション サーバ] > [ABAP 管理テンプレート]




J2EE アプリケーション サーバの場合:

[構成フォルダ] > [ERP 管理] > [SAP NetWeaver アプリケーション サーバ] > [JAVA 管理テンプレート]

3. [SAP 管理テンプレート] フォルダーでデプロイする管理テンプレートをクリックし、 をクリックします。
[割り当てとデプロイ] ウィザードが開きます。


4. **[構成アイテム]** タブで管理テンプレートを割り当てる SAP システムまたは SID をクリックし、**[次へ]** をクリックします。**[Ctrl]** キーまたは **[Shift]** キーを押しながら選択すると、複数のアイテムを選択できます。**[次へ]** をクリックして CI を確認し、**[必要なパラメータ]** に進みます。
5. **[必要なパラメータ]** タブで、必須パラメータを指定する必要があります。


J2EE の場合:

- a. リストの **[Java インストール ディレクトリ]** パラメータを選択して、 をクリックします。**[パラメータの編集: Java インストール ディレクトリ]** ダイアログボックスが開きます。
- b. **[値]** をクリックして値を指定し、**[OK]** をクリックします。
- c. リストの **[SAP J2EE アプリケーション サーバインスタンス ユーザ名]** パラメータを選択して、 をクリックします。**[パラメータの編集: SAP J2EE アプリケーション サーバインスタンス ユーザ名]** ダイアログボックスが開きます。
- d. **[値]** をクリックして値を指定し、**[OK]** をクリックします。
- e. リストの **[SAP J2EE アプリケーション サーバのインスタンス パスワード]** パラメータを選択して、 をクリックします。**[パラメータの編集: SAP J2EE アプリケーション サーバのインスタンス パスワード]** ダイアログボックスが開きます。
- f. **[値]** をクリックして値を指定し、**[OK]** をクリックします。

ABAP の場合:

注: この割り当ての編集にパラメータの指定は不要です。

6. **[次へ]** をクリックして **[すべてのパラメータ]** に進みます。パラメータのデフォルト値を変更するには、パラメータを選択して  をクリックします。**[パラメータの編集]** ダイアログボックスが開きます。**[値]** をクリックして値を指定し、**[OK]** をクリックします。

注: **[すべてのパラメータ]** ペインでは、パラメータのデフォルト値を上書きできます。各パラメータの値は、管理テンプレートレベルで指定できます。デフォルトでは、エキスパートパラメータとして定義されているパラメータは表示されません。エキスパートパラメータを表示するには、 **[エキスパートパラメータの表示]** をクリックします。

7. **[次へ]** をクリックします。
8. オプション: **[構成オプション]** タブで、割り当てを直ちに有効化しない場合は **[割り当てオブジェクトの有効化]** チェックボックスを外します。**[割り当ておよび調整]** ペインを使用して、後で割り当てを有効化できます。
9. **[完了]** をクリックします。

注: 管理テンプレートのデプロイ時に与えられるユーザ名には、OMi MP for SAP のデータ収集権限が必要です。ABAPとJ2EEアプリケーションサーバ用に別々のユーザを作成できます。ABAPとJ2EEアプリケーションサーバのデータ収集権限を持つSAPユーザを1つ作成することもできます。

注: SAP ABAPアプリケーションサーバに対するデータロギングは、デフォルトで無効になっています。SAP ABAPデータロギングを有効にするには、SAP ABAPアプリケーションサーバ - パフォーマンス エージェントの開始ツールを実行する必要があります。

タスク 6: SAP アスペクトのデプロイ

注: **Monitoring Automation for Composite Applications** ライセンスを使用し、既にSAP管理テンプレートをデプロイしている場合は、このタスクをスキップしてください。

Monitoring Automation for Servers ライセンスを使用している場合、OMi MP for SAPアスペクトをSAP CIにデプロイする必要があります。

注: CIがSiteScopeやDDMなどの他のソースによって既に設定されていても、SAP検出アスペクトのデプロイは必要です。詳細については、「[タスク 2: SAP 検出アスペクトのデプロイ](#)」を参照してください。

注: 他のSAP ABAPアスペクトをデプロイする前に、**SAP ABAP 構成**アスペクトをデプロイする必要があります。

SAP 管理対象ノードへの SAP ABAP 構成アスペクトのデプロイ


SAP 管理対象ノードにSAP ABAP 構成アスペクトをデプロイするには、以下の手順を実行します。



1. [管理テンプレートおよびアスペクト] ペインを開きます。

[管理] > [オペレーション管理] > [モニタリング] > [管理テンプレートおよびアスペクト]

2. [構成フォルダ] ペインで、次を選択します。


[構成フォルダ] > [ERP 管理] > [SAP NetWeaver アプリケーション サーバ] > [ABAP アスペクト]

3. [SAP ABAP アスペクト] フォルダーで **SAP ABAP 構成**アスペクトを選択し、 [項目の割り当てとデプロイ] をクリックして [割り当てとデプロイ] ウィザードを開きます。
4. [構成アイテム] タブで、SAP ABAP 構成アスペクトをデプロイするSAP管理対象ノードをクリックします。[次へ] をクリックしてCIを確認し、[必要なパラメータ] に進みます。


5. **[必要なパラメータ]** タブで、必須パラメータを指定する必要があります。
 - a. **[SAP ABAP アプリケーション サーバ インスタンス名]** パラメータを選択し、 をクリックします。[パラメータの編集] ダイアログ ボックスが開きます。
 - b. [インスタンスパラメータの編集] ペインで、**[SAP ABAP アプリケーション サーバ インスタンス名]** パラメータを選択し、 をクリックします。[パラメータの編集] ダイアログ ボックスが開きます。
 - c. **[値]** をクリックして、以下の形式で値を指定します。

ShortHostName_SAPSID_SAPInstNum_ABAP


例:

TestNode_W09_00_ABAP
 - d. **[OK]** をクリックします。
 - e. リストの **[SAP ABAP アプリケーション サーバ クライアント]** パラメータを選択して、 をクリックします。[パラメータの編集: SAP ABAP アプリケーション サーバ クライアント] ダイアログ ボックスが開きます。
 - f. **[値]** をクリックし、SAP ABAP サーバのクライアント番号を指定して、**[OK]** をクリックします。

例:


001
 - g. **[SAP ABAP アプリケーション サーバのインスタンス番号]** パラメータを選択し、 をクリックします。[パラメータの編集] ダイアログ ボックスが開きます。
 - h. **[値]** をクリックし、SAP ABAP サーバのインスタンス番号を指定して、**[OK]** をクリックします。


例:

00
 - i. **[SAP ABAP ホスト名]** パラメータを選択し、 をクリックします。[パラメータの編集] ダイアログ ボックスが開きます。
 - j. **[値]** をクリックし、SAP 管理対象ノード名 (完全修飾名) をかっこで囲んで指定します。

例:

(TestNode.hp.com)
 - k. **[OK]** をクリックします。
6. **[次へ]** をクリックして **[すべてのパラメータ]** に進みます。パラメータのデフォルト値を変更するには、パラ

メータを選択して  をクリックします。[パラメータの編集] ダイアログ ボックスが開きます。[値] をクリックして値を指定し、[OK] をクリックします。

注: SAP ABAP アプリケーション サーバの必須パラメータのデフォルト値を変更するには、パラメータを選択して  をクリックします。[パラメータの編集] ダイアログ ボックスが開きます。[値] をクリックして値を指定し、[OK] をクリックします。

7. [完了] をクリックします。

OMi MP for SAP アスペクトのデプロイ

SAP 管理対象ノードに OMi MP for SAP アスペクトをデプロイするには、以下の手順を実行します。

1. [管理テンプレートおよびアスペクト] ペインを開きます。

[管理] > [オペレーション管理] > [モニタリング] > [管理テンプレートおよびアスペクト]


2. [構成フォルダ] ペインで、次を選択します。

ABAP アプリケーション サーバの場合:



[構成フォルダ] > [ERP 管理] > [SAP NetWeaver アプリケーション サーバ] > [ABAP アスペクト]


J2EE アプリケーション サーバの場合:

[構成フォルダ] > [ERP 管理] > [SAP NetWeaver アプリケーション サーバ] > [JAVA アスペクト]

3. 特定の SAP アスペクト フォルダーでデプロイする SAP アスペクトを選択し、 [項目の割り当てとデプロイ] をクリックして [割り当てとデプロイ] ウィザードを開きます。
4. [構成アイテム] タブで、SAP アスペクトをデプロイする SAP 管理対象ノードをクリックします。[Ctrl] キーまたは [Shift] キーを押しながら選択すると、複数のアイテムを選択できます。[次へ] をクリックして CI を確認し、[必要なパラメータ] に進みます。
5. [必要なパラメータ] タブで、必須パラメータを指定する必要があります。


J2EE の場合:

- a. リストの [Java インストール ディレクトリ] パラメータを選択して、 をクリックします。[パラメータの編集: Java インストール ディレクトリ] ダイアログ ボックスが開きます。
- b. [値] をクリックして値を指定し、[OK] をクリックします。
- c. リストの [SAP J2EE アプリケーション サーバインスタンス ユーザ名] パラメータを選択して、 をクリックします。[パラメータの編集: SAP J2EE アプリケーション サーバインスタンス ユーザ名] ダイアログ ボックスが開きます。


- d. **[値]**をクリックして値を指定し、**[OK]**をクリックします。
- e. リストの**[SAP J2EE アプリケーション サーバのインスタンス パスワード]**パラメータを選択して、をクリックします。**[パラメータの編集: SAP J2EE アプリケーション サーバのインスタンス パスワード]**ダイアログボックスが開きます。
- f. **[値]**をクリックして値を指定し、**[OK]**をクリックします。

ABAP の場合:


注: この割り当ての編集にパラメータの指定は不要です。

6. **[次へ]**をクリックして**[すべてのパラメータ]**に進みます。パラメータのデフォルト値を変更するには、パラメータを選択してをクリックします。**[パラメータの編集]**ダイアログボックスが開きます。**[値]**をクリックして値を指定し、**[OK]**をクリックします。

J2EE の場合:

[SAP J2EE アプリケーション サーバのインスタンス名]パラメータのデフォルト値を変更するには、パラメータを選択してをクリックします。**[パラメータの編集]**ダイアログボックスが開きます。**[値]**をクリックして値を指定し、**[OK]**をクリックします。

ABAP の場合:

SAP ABAP アプリケーション サーバの必須パラメータのデフォルト値を変更するには、パラメータを選択してをクリックします。**[パラメータの編集]**ダイアログボックスが開きます。**[値]**をクリックして値を指定し、**[OK]**をクリックします。

7. **[次へ]**をクリックします。
8. オプション: 割り当てを直ちに有効化しない場合は、**[割り当てオブジェクトの有効化]**チェックボックスを外します。**[割り当ておよび調整]**ペインを使用して、後で割り当てを有効化できます。
9. **[完了]**をクリックします。

タスク 7: SAP ABAP 監視テンプレートの構成

OMi MP for SAP には、SAP ABAP アプリケーション サーバの特定の機能を監視できる SAP ABAP 監視テンプレートが含まれています。OMi MP for SAP に備えられている SAP ABAP 監視テンプレート セットには、手動で設定せずにそのままデプロイできる、標準設定の構成が含まれています。OMi MP for SAP を使用すると、SAP 環境固有の機能を監視するための SAP ABAP 監視テンプレートを構成できます。

以下の表は、標準設定の構成を持つ SAP ABAP 監視テンプレートの一覧です。

SAP ABAP 監視テンプレート	説明
-------------------	----

SAPABAP_CCMSIntegrationMon	SAP CCMS 監視 インフラストラクチャの出力を監視する SAP ABAP 監視 テンプレート。
SAPABAP_DispMon	さまざまな種類の SAP ワークプロセスに対する各種のキューのサイズ、内容、ステータスを監視する SAP ABAP 監視 テンプレート。
SAPABAP_DumpMon	SAP ABAP システムで発生するランタイムエラーを監視する SAP ABAP 監視 テンプレート。
SAPABAP_LckChkMon	各種の SAP トランザクションと SAP レポートの SAP ABAP 論理ロックを管理する Enqueue プロセスを監視する SAP ABAP 監視 テンプレート。
SAPABAP_Perfmon	各種の OMi MP for SAP パフォーマンス モニタから SAP パフォーマンス メトリックを収集する SAP ABAP 監視 テンプレート。
SAPABAP_SplMon	SAP ABAP スプーラ エントリの数、エラー生成スプール要求、印刷要求での間違ったスプーラ エントリ の数を監視する SAP ABAP 監視 テンプレート。
SAPABAP_StatusMon	SAP ABAP アプリケーション サーバの可用性ステータスを監視する SAP ABAP 監視 テンプレート。
SAPABAP_TraceMon	すべての SAP トレースとログファイルにおいて "ERROR" を監視する SAP ABAP 監視 テンプレート。
SAPABAP_TransMon	正常にインポート/エクスポートされた SAP ABAP の移送、失敗したインポート/エクスポート、確認済み/未確認の修復の可用性、設定システムとの接続/TP テストを監視する SAP ABAP 監視 テンプレート。
SAPABAP_UpdProcMon	非アクティブのステータスとエラーなどの SAP ABAP 更新プロセスのさまざまな状態を監視する SAP ABAP 監視 テンプレート。
SAPABAP_WPMon	作業プロセスの実行、作業プロセスの待機、Debug/Private/No Restart などのワークプロセスの各種のステータスの確認を監視する SAP ABAP 監視 テンプレート。

SAP ABAP 監視 テンプレートの構成の詳細については、「[SAP ABAP 監視 テンプレートの設定とデプロイ](#)」を参照してください。

OMi コンソールでの作業の開始

ABAP と Java アプリケーション サーバ インスタンスで構成されるビジネス クリティカルな SAP 環境を監視したいと考えています。



SAP 環境には、ABAP または Java、あるいはその両方のアプリケーション サーバ インスタンスを持つことができます。ABAP または Java、あるいはその両方のアプリケーション サーバの可用性とパフォーマンスをチェックし、さらに、SAP 環境の基本的な機能も監視したいと考えています。

タスク 1: OMi コンソールへのノードの追加

監視を始める前に、OMi コンソールに SAP ノードを追加する必要があります。

1. [管理] から [モニタ対象ノード] マネージャを開きます。

[管理] > [セットアップと保守] > [モニタ対象ノード]

2. [ノード ビュー] ペインで [事前定義済みのノード フィルタ] > [モニタ対象ノード] をクリックし、 をクリックしてから、[Computer] > [Windows] または [Unix] を選択します。[モニタ対象ノードの新規作成] ダイアログ ボックスが表示されます。
3. ノードの [プライマリ DNS 名]、[IP アドレス]、[オペレーティングシステム]、[プロセッサアーキテクチャ]、およびノードの説明を指定します。リストにない IP アドレスを含めたい場合は、新しい IP アドレスを追加できます。
 - a. [IP アドレス] ツールバーで  をクリックします。[IP アドレスの作成] ダイアログ ボックスが開きます。
 - b. IP アドレスとルーティングドメインを入力します。
 - c. IP アドレスが DHCP サーバによって割り当てられている場合は、[DHCP] チェックボックスをクリックします。
 - d. [OK] をクリックします。
4. [モニタ対象ノード] ダイアログ ボックスで [OK] をクリックします。

タスク 2: SAP 検出アスペクトのデプロイ

追加した SAP 管理対象ノード上の SAP CI を検出するには、SAP 検出アスペクトをデプロイする必要があります。OMi MP for SAP には ABAP と J2EE アプリケーション サーバ用の 2 つの検出アスペクト セットがあります。検出する CI のタイプに対応する検出アスペクトをデプロイできます。

SAP J2EE 検出アスペクトのデプロイ


SAP ランドスケープ内の J2EE アプリケーション サーバを検出するには、以下の手順を実行します。

1. [管理テンプレートおよびアスペクト] ペインを開きます。

[管理] > [監視] > [管理テンプレートおよびアスペクト]

2. [構成フォルダ] ペインで、次を選択します。

[構成フォルダ] > [ERP 管理] > [SAP NetWeaver アプリケーション サーバ] > [JAVA アスペクト]

3. [Java アスペクト] フォルダで **SAP J2EE 検出** アスペクトを選択し、 をクリックして [割り当てとデプロイ] ウィザードを開きます。
4. **[構成アイテム]** タブで、SAP J2EE 検出アスペクトをデプロイする SAP 管理対象ノードを選択します。
5. **[次へ]** をクリックして **[必要なパラメータ]** タブに進みます。

注: この割り当ての編集にパラメータの指定は不要です。

6. **[次へ]** をクリックして **[パラメータ サマリ]** タブに進みます。

注: この割り当てに使用できるパラメータはありません。

7. **[次へ]** をクリックします。
8. オプション: 割り当てを直ちに有効化しない場合は、**[割り当ての有効化]** チェックボックスを外します。[割り当ておよび調整] ペインを使用して、後で割り当てを有効化できます。
9. **[完了]** をクリックします。

SAP ABAP 検出アスペクトのデプロイ


SAP ランドスケープ内の SAP ABAP アプリケーション サーバを検出するには、以下の手順を実行します。

1. [管理テンプレートおよびアスペクト] ペインを開きます。

[管理] > [監視] > [管理テンプレートおよびアスペクト]

2. [構成フォルダ] ペインで、次を選択します。

[構成フォルダ] > [ERP 管理] > [SAP NetWeaver アプリケーション サーバ] > [ABAP アスペクト]

3. [ABAP アスペクト] フォルダで **SAP ABAP 検出** アスペクトを選択し、 をクリックして [割り当てとデプロイ] ウィザードを開きます。
4. **[構成アイテム]** タブで、SAP ABAP 検出アスペクトをデプロイする SAP 管理対象ノードをクリックします。
5. **[次へ]** をクリックして **[必要なパラメータ]** タブに進みます。

注: この割り当ての編集にパラメータの指定は不要です。

6. **[次へ]** をクリックして **[パラメータ サマリ]** に進みます。

注: この割り当てに使用できるパラメータはありません。

7. **[次へ]**をクリックします。
8. オプション: 割り当てを直ちに有効化しない場合は、**[割り当ての有効化]**チェックボックスを外します。**[割り当ておよび調整]**ペインを使用して、後で割り当てを有効化できます。
9. **[完了]**をクリックします。

SAP ABAP リモート構成アスペクトのデプロイ

Operations Agent (OA) をインストールしていないノード上で SAP ABAP アプリケーション サーバを監視する場合は、SAP ABAP リモート構成アスペクトをデプロイできます。


SAP ABAP リモート構成アスペクトをデプロイするには、以下の手順を実行します。


1. **[管理テンプレートおよびアスペクト]** ペインを開きます。

[管理] > [監視] > [管理テンプレートおよびアスペクト]

2. **[構成フォルダ]** ペインで、次を選択します。

[構成フォルダ] > [ERP 管理] > [SAP NetWeaver アプリケーション サーバ] > [ABAP アスペクト]

3. **[ABAP アスペクト]** フォルダで **SAP ABAP リモート構成アスペクト** を選択し、 をクリックして **[割り当てとデプロイ]** ウィザードを開きます。
4. **[構成アイテム]** タブで監視ホスト (エージェントをインストールしているホスト) として使用する SAP 管理対象ノードをクリックして **[次へ]** をクリックします。**[必要なパラメータ]** タブが開きます。
5. **[必要なパラメータ]** タブで、OMi MP for SAP を使用して監視するリモート SAP セントラルインスタンスノードの詳細を指定する必要があります。



- a. リストの **[ホスト名と SID 付きの SAP ABAP アプリケーション サーバ インスタンス]** パラメータを選択して、 をクリックします。**[パラメータの編集: ホスト名と SID 付きの SAP ABAP アプリケーション サーバのインスタンス番号]** ダイアログボックスが開きます。
- b. 次の例で示すように、リモート SAP ABAP アプリケーション サーバのホスト名と SID 付きで **[SAP ABAP アプリケーション サーバのセントラル インスタンス]** を指定します。

例:


testnode.hp.com_T01_00

ここで、testnode.hp.com は完全修飾された SAP リモート ホスト名で、T01 は SAP リモート ホストの SID、00 は SAP インスタンス番号です。

- c. **[OK]** をクリックします。

- d. リストの **[SAP ABAP アプリケーション サーバクライアント]** パラメータを選択して、 をクリックします。[パラメータの編集: SAP ABAP アプリケーション サーバクライアント] が開きます。
 - e. **[値]** をクリックし、リモート SAP ABAP アプリケーション サーバのクライアント番号を指定して、**[OK]** をクリックします。
6. **[次へ]** をクリックして **[パラメータ サマリ]** に進みます。パラメータのデフォルト値を変更するには、パラメータを選択して  をクリックします。[パラメータの編集] ダイアログボックスが開きます。**[値]** をクリックして値を指定し、**[OK]** をクリックします。たとえば、**[インスタンス パラメータの編集]** メニューから、リモート SAP ABAP アプリケーション サーバのデフォルトのユーザ名とパスワードを変更できます。**[インスタンス パラメータの編集]** メニューから、監視するリモート ホストを複数追加することもできます。

[インスタンス パラメータの編集] メニューから SAP リモート ノードを追加するには、以下の手順を実行します。

- a. [インスタンス値] ペインで、 をクリックします。[パラメータの編集] ダイアログボックスが開きます。
- b. 次の例で示すように、リモート SAP ABAP アプリケーション サーバのホスト名とSID を付けて SAP ABAP アプリケーション サーバインスタンスを指定します。

例:

testnode.hp.com_T01_00

ここで、testnode.hp.com は完全修飾された SAP リモート ホスト名で、T01 は SAP リモート ホストのSID、00 は SAP インスタンス番号です。

OMi MP for SAP では、リモート SAP ABAP アプリケーション サーバの資格情報を以下の組み合わせで提供します。

- i. リモート ホスト名 (完全修飾ホスト名)、単一の SAP SID、および複数の ABAP アプリケーション サーバインスタンス。

例:

testnode.hp.com_T01_00

testnode.hp.com_T01_01

testnode.hp.com_T01_03

- ii. リモート ホスト名 (完全修飾ホスト名)、複数の SAP SID および ABAP アプリケーション サーバインスタンス。

例:

testnode.hp.com_T01_00

testnode.hp.com_T02_00

testnode.hp.com_T03_00


- iii. 複数のリモート ホスト名 (完全修飾ホスト名)、SAP SID および ABAP アプリケーション サーバインスタンス。

例:

testnode.hp.com_T01_00

testnode01.hp.com_T01_00

testnode02.hp.com_T01.3_00

注: [パラメータ サマリ] タブでは、パラメータのデフォルト 値を上書きできます。各パラメータの値は、管理テンプレート レベルで指定できます。デフォルトでは、エキスパート パラメータとして定義されているパラメータは表示されません。エキスパート パラメータを表示するには、 [エキスパート パラメータの表示] をクリックします。

7. [次へ] をクリックします。
8. オプション: 割り当てを直ちに有効化しない場合は、[割り当ての有効化] チェック ボックスを外します。[割り当ておよび調整] ペインを使用して、後で割り当てを有効化できます。
9. [完了] をクリックします。

注: SAP 検出アスペクトをデプロイした後、OMi コンソールに SAP CI が表示されていることを確認する必要があります。検出された CI を表示するには、[ワークスペース] > [ダッシュボード] > [360° View] に移動します。SAP_Deployment ビューを選択します。トップビューに SAP CI が表示されています。SAP_ABAP_Deployment と SAP_J2EE_Deployment ビューを選択し、それぞれの SAP アプリケーション サーバ CI を表示します。

タスク 3: ABAP アプリケーション サーバの監視用の SAP ノードの設定

SAP ABAP アプリケーション サーバを監視するために OMi MP for SAP を有効にするには、次のタスクを実行する必要があります。

1. OMi MP for SAP 移送を適用する

OMi MP for SAP 移送 ファイルをインストールメンテーション フォルダから、各 SAP NetWeaver セントラル インスタンスの SAP 移送 ディレクトリにコピーし、これらのファイルを適用する必要があります。

2. OMi 用の SAP ユーザを設定する

OMi MP for SAP アプリケーション、モニタ、アクションが SAP にアクセスする必要がある場合に OMi MP for SAP が SAP にログオンできるように、OMi 用の SAP ユーザを設定する必要があります。

3. lib ファイルをインストールメンテーション フォルダにコピーする

SAP RFC ライブラリファイルを SAP 管理対象ノード上のインストールメンテーション フォルダにコピーする必要があります。

4. Solaris 管理対象ノードの場合、LD_LIBRARY_PATH を 32 ビットの libgcc_s.so パスに設定する

Solaris 管理対象ノードを監視する場合、LD_LIBRARY_PATH を 32 ビットの libgcc_s.so パスに設定する必要があります。

ABAP アプリケーション サーバの監視用の SAP ノードの設定の詳細については、『OMi MP for SAP インストールガイド』を参照してください。

タスク 4: SAP ABAP 構成アスペクトのデプロイ

注: SAP ABAP 管理テンプレートをデプロイする前に、**SAP ABAP 構成アスペクト**をデプロイする必要があります。


SAP ABAP アプリケーション サーバに SAP ABAP 構成アスペクトをデプロイするには、以下の手順を実行します。

1. [管理テンプレートおよびアスペクト] ペインを開きます。


[管理] > [監視] > [管理テンプレートおよびアスペクト]


2. [構成フォルダ] ペインで、次を選択します。

[構成フォルダ] > [ERP 管理] > [SAP NetWeaver アプリケーション サーバ] > [SAP ABAP アスペクト]

3. [ABAP アスペクト] フォルダで **SAP ABAP 構成アスペクト**を選択し、をクリックして [割り当てとデプロイ] ウィザードを開きます。
4. **[構成アイテム]** タブで、SAP アスペクトをデプロイする SAP ABAP アプリケーション サーバセントラル インスタンスをクリックします。SAP セントラル インスタンスとアプリケーション サーバをサポートする SAP ABAP アスペクトの詳細については、「デプロイメント シナリオ」の「OMi MP for SAP ABAP 監視テンプレート設定ファイル」の表を参照してください。

注: SAP ABAP リモート構成アスペクトの一部として設定される SAP ABAP アプリケーションサーバを選択しないでください。詳細については、「[SAP ABAP リモート構成アスペクトのデプロイ](#)」(40ページ)を参照してください。

5. **[次へ]** をクリックします。**[必要なパラメータ]** タブが開きます。
6. **[SAP ABAP アプリケーション サーバクライアント]** パラメータを選択し、 をクリックします。**[パラメータの編集: SAP ABAP アプリケーション サーバクライアント]** が開きます。
7. **[値]** をクリックして値を指定し、**[OK]** をクリックします。
8. **[次へ]** をクリックして **[パラメータ サマリ]** タブに進みます。**[パラメータ サマリ]** タブでパラメータのデフォルト値を編集できます。

注: SAP ABAP アプリケーション サーバの必須パラメータのデフォルト値を変更するには、パラメータを選択して  をクリックします。**[パラメータの編集]** ダイアログボックスが開きます。**[値]** をクリックして値を指定し、**[OK]** をクリックします。

9. **[次へ]** をクリックします。
10. オプション: 割り当てを直ちに有効化しない場合は、**[割り当ての有効化]** チェックボックスを外します。**[割り当ておよび調整]** ペインを使用して、後で割り当てを有効化できます。
11. **[完了]** をクリックします。

タスク 5: SAP 管理テンプレートの特定とデプロイ

Monitoring Automation for Composite Applications ライセンスを使用している場合、OMi MP for SAP 管理テンプレートを SAP CI にデプロイできます。Monitoring Automation for Servers ライセンスを使用している場合、スキップして「[タスク 6: SAP アスペクトのデプロイ](#)」に進みます。

注: CI が SiteScope や DDM などの他のソースによって既に設定されていても、SAP 検出アスペクトのデプロイは必要です。詳細については、「[タスク 2: SAP 検出アスペクトのデプロイ](#)」を参照してください。

OMi MP for SAP には、お使いの SAP ランドスケープ内で ABAP と J2EE アプリケーション サーバを監視するための 2 つの管理テンプレートとアスペクト セットがあります。OMi MP for SAP には SAP ABAP 監視テンプレート セットも含まれています。これらのテンプレートを設定して、お使いの SAP 環境内の ABAP アプリケーション サーバのさまざまな機能に関する情報を収集するために定期的に実行します。ABAP 監視テンプレートについての詳細は、OMi MP for SAP オンライン ヘルプを参照してください。

SAP 管理テンプレートのデプロイ

SAP 管理テンプレートをデプロイする前に、以下の推奨事項に従って、SAP 環境に適したテンプレートを選択する必要があります。

- 状況、ダンプステータス、バッチジョブ状況、移送、ユーザ状況、プロセスとディスパッチャ、ワークプロセス、セキュリティ、RFC宛先といったコンポーネントで構成されるSAP ABAPアプリケーションサーバの基本的な機能を監視する場合、**基本 SAP ABAP 管理テンプレート**をデプロイできます。
- SAP ABAPアプリケーションサーバ環境の詳細な監視を行う場合は、**詳細 SAP ABAP 管理テンプレート**をデプロイできます。
- SAP J2EE 要求、システムとアプリケーションスレッドプール、メモリとトランザクションステータスといったコンポーネントで構成されるSAP J2EEアプリケーションサーバの基本的な機能を監視する場合、**基本 SAP J2EE 管理テンプレート**をデプロイできます。
- SAP J2EEアプリケーションサーバ環境の詳細な監視を行う場合は、**詳細 SAP J2EE 管理テンプレート**をデプロイできます。

OMi MP for SAP 管理テンプレートをデプロイするには、以下の手順に従います。

1. [管理テンプレートおよびアспект] ペインを開きます。

[管理] > [監視] > [管理テンプレートおよびアспект]


2. [構成フォルダ] ペインで、次を選択します。

ABAPアプリケーションサーバの場合:


[構成フォルダ] > [ERP 管理] > [SAP NetWeaver アプリケーション サーバ] > [ABAP 管理テンプレート]



J2EEアプリケーションサーバの場合:

[構成フォルダ] > [ERP 管理] > [SAP NetWeaver アプリケーション サーバ] > [JAVA 管理テンプレート]

3. [SAP 管理テンプレート] フォルダでデプロイする管理テンプレートをクリックし、 をクリックします。[割り当てとデプロイ] ウィザードが開きます。
4. **[構成アイテム]** タブで管理テンプレートを割り当てるSAPシステムまたはSIDをクリックし、**[次へ]** をクリックします。**[Ctrl]** キーまたは**[Shift]** キーを押しながら選択すると、複数のアイテムを選択できます。**[次へ]** をクリックしてCIを確認し、**[必要なパラメータ]**に進みます。
5. **[必要なパラメータ]** タブで、必須パラメータを指定する必要があります。


J2EE の場合:


- a. リストの**[Java インストール ディレクトリ]**パラメータを選択して、 をクリックします。[パラメータの編集: Java インストール ディレクトリ] ダイアログボックスが開きます。
- b. **[値]** をクリックして値を指定し、**[OK]** をクリックします。

- c. リストの **[SAP J2EE アプリケーション サーバ インスタンス ユーザ名]** パラメータを選択して、 をクリックします。[パラメータの編集: SAP J2EE アプリケーション サーバ インスタンス ユーザ名] ダイアログボックスが開きます。
- d. **[値]** をクリックして値を指定し、**[OK]** をクリックします。
- e. リストの **[SAP J2EE アプリケーション サーバのインスタンス パスワード]** パラメータを選択して、 をクリックします。[パラメータの編集: SAP J2EE アプリケーション サーバのインスタンス パスワード] ダイアログボックスが開きます。
- f. **[値]** をクリックして値を指定し、**[OK]** をクリックします。

ABAP の場合:

注: この割り当ての編集にパラメータの指定は不要です。

6. **[次へ]** をクリックして **[パラメータ サマリ]** タブに進みます。パラメータのデフォルト値を変更するには、パラメータを選択して  をクリックします。[パラメータの編集] ダイアログボックスが開きます。**[値]** をクリックして値を指定し、**[OK]** をクリックします。

注: **[パラメータ サマリ]** タブでは、パラメータのデフォルト値を上書きできます。各パラメータの値は、管理テンプレートレベルで指定できます。デフォルトでは、エキスパートパラメータとして定義されているパラメータは表示されません。エキスパートパラメータを表示するには、 **[エキスパートパラメータの表示]** をクリックします。

7. **[次へ]** をクリックします。
8. オプション: **[構成オプション]** タブで、割り当てを直ちに有効化しない場合は **[割り当ての有効化]** チェックボックスを外します。[割り当ておよび調整] ペインを使用して、後で割り当てを有効化できます。
9. **[完了]** をクリックします。

注: 管理テンプレートのデプロイ時に与えられるユーザ名には、OMi MP for SAP のデータ収集権限が必要です。ABAPとJ2EEアプリケーションサーバ用に別々のユーザを作成できます。ABAPとJ2EEアプリケーションサーバのデータ収集権限を持つSAPユーザを1つ作成することもできます。

注: SAP ABAP アプリケーションサーバに対するデータロギングは、デフォルトで無効になっています。SAP ABAP データロギングを有効にするには、SAP ABAP アプリケーションサーバ - パフォーマンス エージェントの開始ツールを実行する必要があります。

タスク 6: SAP アスペクトのデプロイ

注: **Monitoring Automation for Composite Application** ライセンスを使用し、既に SAP 管理テンプレートをデプロイしている場合は、このタスクをスキップしてください。

Monitoring Automation for Servers ライセンスを使用している場合、OMi MP for SAPアスペクトを SAP CI にデプロイする必要があります。

注: CI が SiteScope や DDM などの他のソースによって既に設定されていても、SAP 検出アスペクトのデプロイは必要です。詳細については、「[タスク 2: SAP 検出アスペクトのデプロイ](#)」を参照してください。

注: 他の SAP ABAP アスペクトをデプロイする前に、**SAP ABAP 構成**アスペクトをデプロイする必要があります。

SAP 管理対象ノードへの SAP ABAP 構成アスペクトのデプロイ


SAP 管理対象ノードに SAP ABAP 構成アスペクトをデプロイするには、以下の手順を実行します。



1. [管理テンプレートおよびアスペクト] ペインを開きます。

[管理] > [監視] > [管理テンプレートおよびアスペクト]

2. [構成フォルダ] ペインで、次を選択します。

[構成フォルダ] > [ERP 管理] > [SAP NetWeaver アプリケーション サーバ] > [ABAP アスペクト]


3. [SAP ABAP アスペクト] フォルダで SAP ABAP 構成アスペクトを選択し、 [項目の割り当てとデプロイ] をクリックして [割り当てとデプロイ] ウィザードを開きます。
4. [構成アイテム] タブで、SAP ABAP 構成アスペクトをデプロイする SAP 管理対象ノードをクリックします。[次へ] をクリックして CI を確認し、[必要なパラメータ] に進みます。
5. [必要なパラメータ] タブで、必須パラメータを指定する必要があります。

- a. [SAP ABAP アプリケーション サーバ インスタンス名] パラメータを選択し、 をクリックします。[パラメータの編集] ダイアログボックスが開きます。
- b. [インスタンスパラメータの編集] ペインで、[SAP ABAP アプリケーション サーバ インスタンス名] パラメータを選択し、 をクリックします。[パラメータの編集] ダイアログボックスが開きます。
- c. [値] をクリックして、以下の形式で値を指定します。

ShortHostName_SAPSID_SAPInstNum_ABAP


例:

TestNode_W09_00_ABAP

- d. **[OK]** をクリックします。
- e. リストの **[SAP ABAP アプリケーション サーバクライアント]** パラメータを選択して、 をクリックします。[パラメータの編集: SAP ABAP アプリケーション サーバクライアント] ダイアログ ボックスが開きます。
- f. **[値]** をクリックし、SAP ABAP サーバのクライアント番号を指定して、**[OK]** をクリックします。


例:

001

- g. **[SAP ABAP アプリケーション サーバのインスタンス番号]** パラメータを選択し、 をクリックします。[パラメータの編集] ダイアログ ボックスが開きます。
- h. **[値]** をクリックし、SAP ABAP サーバのインスタンス番号を指定して、**[OK]** をクリックします。


例:


00

- i. **[SAP ABAP ホスト名]** パラメータを選択し、 をクリックします。[パラメータの編集] ダイアログ ボックスが開きます。
- j. **[値]** をクリックし、SAP 管理対象ノード名 (完全修飾名) をかっこで囲んで指定します。

例:

(TestNode.hp.com)

- k. **[OK]** をクリックします。
6. **[次へ]** をクリックして **[パラメータ サマリ]** に進みます。パラメータのデフォルト値を変更するには、パラメータを選択して  をクリックします。[パラメータの編集] ダイアログ ボックスが開きます。**[値]** をクリックして値を指定し、**[OK]** をクリックします。

注: SAP ABAP アプリケーション サーバの必須パラメータのデフォルト値を変更するには、パラメータを選択して  をクリックします。[パラメータの編集] ダイアログ ボックスが開きます。**[値]** をクリックして値を指定し、**[OK]** をクリックします。

7. **[完了]** をクリックします。

OMi MP for SAP アスペクトのデプロイ

SAP 管理対象ノードに OMi MP for SAP アスペクトをデプロイするには、以下の手順を実行します。

1. [管理 テンプレート およびアспект] ペインを開きます。

[管理] > [監視] > [管理テンプレートおよびアспект]


2. [構成フォルダ] ペインで、次を選択します。

ABAP アプリケーション サーバの場合:




[構成フォルダ] > [ERP 管理] > [SAP NetWeaver アプリケーション サーバ] > [ABAP アспект]

J2EE アプリケーション サーバの場合:

[構成フォルダ] > [ERP 管理] > [SAP NetWeaver アプリケーション サーバ] > [JAVA アспект]

3. 特定の SAP アспект フォルダでデプロイする SAP アспектを選択し、 [項目の割り当てとデプロイ] をクリックして [割り当てとデプロイ] ウィザードを開きます。
4. [構成アイテム] ページで、SAP アспектをデプロイする SAP 管理対象ノードをクリックします。[Ctrl] キーまたは [Shift] キーを押しながら選択すると、複数のアイテムを選択できます。[次へ] をクリックして CI を確認し、[必要なパラメータ] に進みます。
5. [必要なパラメータ] タブで、必須パラメータを指定する必要があります。


J2EE の場合:

- a. リストの [Java インストール ディレクトリ] パラメータを選択して、 をクリックします。[パラメータの編集: Java インストール ディレクトリ] ダイアログ ボックスが開きます。
- b. [値] をクリックして値を指定し、[OK] をクリックします。
- c. リストの [SAP J2EE アプリケーション サーバ インスタンス ユーザ名] パラメータを選択して、 をクリックします。[パラメータの編集: SAP J2EE アプリケーション サーバ インスタンス ユーザ名] ダイアログ ボックスが開きます。
- d. [値] をクリックして値を指定し、[OK] をクリックします。
- e. リストの [SAP J2EE アプリケーション サーバのインスタンス パスワード] パラメータを選択して、 をクリックします。[パラメータの編集: SAP J2EE アプリケーション サーバのインスタンス パスワード] ダイアログ ボックスが開きます。
- f. [値] をクリックして値を指定し、[OK] をクリックします。


ABAP の場合:

注: この割り当ての編集にパラメータの指定は不要です。


6. [次へ] をクリックして [パラメータ サマリ] に進みます。パラメータのデフォルト値を変更するには、パラ

メータを選択して  をクリックします。[パラメータの編集] ダイアログボックスが開きます。[値] をクリックして値を指定し、[OK] をクリックします。

J2EE の場合:

[SAP J2EE アプリケーション サーバのインスタンス名] パラメータのデフォルト値を変更するには、パラメータを選択して  をクリックします。[パラメータの編集] ダイアログボックスが開きます。[値] をクリックして値を指定し、[OK] をクリックします。

ABAP の場合:

SAP ABAP アプリケーション サーバの必須パラメータのデフォルト値を変更するには、パラメータを選択して  をクリックします。[パラメータの編集] ダイアログボックスが開きます。[値] をクリックして値を指定し、[OK] をクリックします。

7. [次へ] をクリックします。
8. オプション: 割り当てを直ちに有効化しない場合は、[割り当ての有効化] チェックボックスを外します。[割り当ておよび調整] ペインを使用して、後で割り当てを有効化できます。
9. [完了] をクリックします。

タスク 7: SAP ABAP 監視テンプレートの構成

OMi MP for SAP には、SAP ABAP アプリケーション サーバの特定の機能を監視できる SAP ABAP 監視テンプレートが含まれています。OMi MP for SAP に備えられている SAP ABAP 監視テンプレート セットには、手動で設定せずにそのままデプロイできる、標準設定の構成が含まれています。OMi MP for SAP を使用すると、SAP 環境固有の機能を監視するための SAP ABAP 監視テンプレートを設定できます。

以下の表は、標準設定の構成を持つ SAP ABAP 監視テンプレートの一覧です。

SAP ABAP 監視テンプレート	説明
SAPABAP_CCMSIntegrationMon	SAP CCMS 監視インフラストラクチャの出力を監視する SAP ABAP 監視テンプレート。
SAPABAP_DispMon	さまざまな種類の SAP ワークプロセスに対する各種のキューのサイズ、内容、ステータスを監視する SAP ABAP 監視テンプレート。
SAPABAP_DumpMon	SAP ABAP システムで発生するランタイムエラーを監視する SAP ABAP 監視テンプレート。
SAPABAP_LckChkMon	各種の SAP トランザクションと SAP レポートの SAP ABAP 論理ロックを管理する Enqueue プロセスを監視する SAP ABAP 監視テンプレート。

SAPABAP_Perfmon	各種のOMi MP for SAP パフォーマンス モニタから SAP パフォーマンス メトリックを収集する SAP ABAP 監視テンプレート。
SAPABAP_SplMon	SAP ABAP スプーラ エントリの数、エラー生成 スプール要求、印刷要求での間違ったスプーラ エントリ の数を監視する SAP ABAP 監視テンプレート。
SAPABAP_StatusMon	SAP ABAP アプリケーション サーバの可用性 ステータスを監視する SAP ABAP 監視テンプレート。
SAPABAP_TraceMon	すべての SAP トレースとログ ファイルにおいて "ERROR" を監視する SAP ABAP 監視テンプレート。
SAPABAP_TransMon	正常にインポート/エクスポートされた SAP ABAP の移送、失敗したインポート/エクスポート、確認済み/未確認の修復の可用性、設定システムとの接続/TP テストを監視する SAP ABAP 監視テンプレート。
SAPABAP_UpdProcMon	非アクティブのステータスとエラーなどの SAP ABAP 更新プロセスのさまざまな状態を監視する SAP ABAP 監視テンプレート。
SAPABAP_WPMon	作業プロセスの実行、作業プロセスの待機、Debug/Private/No Restart などのワークプロセスの各種のステータスの確認を監視する SAP ABAP 監視テンプレート。

SAP ABAP 監視テンプレートの設定の詳細については、『HP OMi Management Pack for SAP オンラインヘルプの PDF 版』の「SAP ABAP 監視テンプレート」の項を参照してください。

第4章: SAP ABAP アプリケーション サーバの監視の有効化とカスタマイズ

この項では、SAP ABAP アプリケーション サーバの監視の有効化とカスタマイズについて説明します。

OMi MP for SAP が SAP ランドスケープ内の ABAP アプリケーション サーバを監視できるようにするには、一連のタスクを実行する必要があります。このフェーズ内のタスクを実行するには、SAP トランザクションと SAP 固有の監視要件についての知識が必要になります。SAP システム アプリケーション サーバだけでなく、OMi GUI も操作する必要があります。BSM または OMi にオペレータとしてログインし、さらにこのフェーズに含まれる SAP タスクを実行するのに十分な権限を持つユーザとして SAP クライアントにログインする必要があります。

SAP 移送の適用

このステップでは、インストールメンテーション フォルダの OMi MP for SAP とともに提供される移送ファイルを、各 SAP セントラル インスタンス上の SAP 移送 ディレクトリにコピーします。このステップでインポートする移送には、SAP ロールと認可 プロファイルが含まれます。SAP ロールと認可 プロファイルはこの項の後半で説明する SAP ユーザの構成を完了する際に必要になります。

OMi MP for SAP 移送には SAP ネームスペース "/HPOV/" を持つオブジェクトが含まれます。この命名規則によって、OMi MP for SAP を使用して SAP システムを監視する場合、管理者はこの時点では OMi MP for SAP のネームスペース移送を使用しなければなりません。

OMi MP for SAP には以下の移送ファイルが含まれます。

- **R3Trans.car**

R3Trans.car 移送には、デフォルトの構成設定とともに OMi MP for SAP が使用するすべての ABAP モニタが含まれます。R3Trans.car 移送を解凍し、SAP セントラル インスタンスにインポートする必要があります。SAP のセントラル モニタリング システム (CEN) の機能のみを使用する場合は、R3Trans.car 移送を解凍し、接続されているすべてのサテライト システムを監視する SAP のセントラル モニタリング システム (CEN) にインポートします。

注: 次の手順を実行するには、CAR/SAPCAR コマンドが必要です。このコマンドは SAP カーネル CD に保存されています。

OMi MP for SAP 移送ファイルを管理対象ノードにコピーするには、以下の手順を実行します。

1. OMi MP for SAP 管理対象ノードに SAP 管理者 (<SID>adm) としてログオンし、CAR (または SAPCAR) コマンドを使用して移送ファイルを /usr/sap/trans に解凍します。以下のコマンドを入力します。

```
CAR -xvf R3Trans.car
```

OMi MP for SAP 移送パッケージには、主要の OMi MP for SAP 移送、テスト プログラム、ユーザーロールなどの各種の移送ファイルが含まれます。移送には必須のものとオプションのものがあります。OMi MP for SAP を使用してモニタするシステムで実行している SAP のバージョンによって、インポートが必要な移送が決まります。OMi MP for SAP 移送とその内容、さらにその移送が必須であるかどうかについての詳細は、SAP 管理対象ノード上の次の場所にある移送 READ ME ファイルを参照してください。

UNIX の場合:

```
/var/opt/OV/bin/instrumentation
```

Windows の場合:

```
%OvAgentDir%/bin\instrumentation
```

2. OMi MP for SAP 移送は、コマンド行または SAP GUI を使用してインポートできます。

コマンド プロンプトを使用して OMi MP for SAP 移送をインポートするには、以下の手順を実行します。

OMi MP for SAP 関連の移送を SAP アプリケーション サーバにインポートします。管理対象ノード上で次のコマンドを SAP 管理者 (<SID>adm) として入力します。

```
cd /usr/sap/trans/bin
```

```
tp addtobuffer <transport_file_name> <SID>
```

```
tp import <transport_file_name> <SID> client=<client_number>
```

このインスタンスでは、<SID> は OMi MP for SAP 管理対象ノード上の SAP システム ID であり、<transport_file_name> は移送ファイル名です。移送ファイル名は、OMi MP for SAP 管理対象ノード上で実行している SAP NetWeaver のバージョンに対応します。例:

```
tp addtobuffer SPIK900132 CIA
```

この移送ファイル名 SPIK900132 と SAP システム ID の CIA は、tp コマンドの正しい構文を説明する目的でのみ使用されています。移送番号と SAP NetWeaver バージョンについての詳細は、SAP 管理対象ノードのインストールメンテーションフォルダ内の移送 READ ME ファイルを参照してください。

TPPARAM ファイルには tp コマンドによって使用される構成パラメータが含まれます。構成パラメータには、SAPSID、ホスト名、データベース構成パスなどが含まれます。SAP 4.6 以降は、TPPARAM ファイルの名前と形式が以下のように変更されました。

```
pf=/usr/sap/trans/bin/TP_DOMAIN_<SID>.PFL
```

tp addtobuffer コマンドを使用しているときにエラーが発生した場合は、次のコマンドを使用して tp バッファを消去できます。

```
tp cleanbuffer <SID>
```

また、SAP GUI を使用して移送ファイルをインポートできます。SAP GUI を使用して移送ファイルをインポートするには、以下の手順を実行します。

- a. OMi MP for SAP 移送ファイルを適用するすべての SAP システムにログオンします。

注: セントラル インスタンスを実行している SAP システムごとに移送を適用する必要があります。

- b. SAP GUI で、SAP Transport Management System (SMTS) ログオン ページを表示するために次のランザクション ID を入力します。STMS
- c. SAP Transport Management System ログオン ページで、Transport アイコンをクリックします (または、F5 ファンクション キーを押します)。
- d. OMi MP for SAP 移送をインポートする SAP システムの SID を選択します。
- e. [ファイル] メニューで、[Extras] > [Other requests] > [Add] をクリックします。
- f. Transport-Request-to-Import キューで、以下を入力します。

```
<Transport_file_name>
```

readme ファイルには、OMi MP for SAP 移送ファイル名の一覧が記載されます。SAP 管理対象ノードの readme ファイルは以下の場所にあります。

UNIX の場合:

```
/var/opt/OV/bin/instrumentation
```

Windows の場合:

```
%OvAgentDir%/bin/instrumentation
```

注: OMi MP for SAP ユーザロールは、SAP ユーザ "ITOUSER" を作成したクライアントにインポートする必要があります。詳細については、「OMi 用の SAP ユーザの設定」を参照してください。OMi MP for SAP ユーザロール移送のデフォルト クライアントは 099 です。

- g. **チェック** [✓] アイコンを選択するか、**Enter** キーを押してランザクション要求を追加します。
- h. 目的の移送をハイライト表示します。

注: 移送をひとつも選択しないと、リスト内のすべての移送が選択されているものとみなされます。

- i. **[要求]** > **[インポート]** を選択します。[要求のインポート] ダイアログ ボックスが開きます。
 - j. 目的のクライアント番号を入力します (000 はデフォルトのクライアント番号です)。
 - k. **[オプション]** タブでシステムに適したアイテムをチェックします。
 - l. **チェック** [✓] アイコンをクリックするか、**Enter** キーを押します。
3. OMi MP for SAP を使用して管理する SAP システムごとにこの手順を繰り返し実行します。

OMi 用の SAP ユーザの設定

OMi オペレータが自動ログオンできるようにする SAP SID すべてで、以下の手順を実行します。

1. SAP にログオンします。
2. 次のトランザクションを呼び出します。/nsu01
3. 次の表に示されているパラメータを使用して、ITouser という名前のユーザを新規に作成します。

注: ユーザロール移送はクライアント依存であるため、SAP ユーザ ITouser は、OMi MP for SAP ユーザロール移送のインポート クライアントと同じ SAP クライアント内で作成する必要があります。これを行わないと、新しい ITouser に対してユーザロール "/hpov/ sapspi_monitoring*" (検証/更新) を割り当てることができません。

ユーザタイプ	<p>DIALOG</p> <p>ユーザタイプを DIALOG に設定せず、対応するパスワードも定義しないと、SAP GUI は機能せず、OMi 内のオペレータ起動アクションとアプリケーションの多くが使用できなくなります。ただし、パフォーマンスとイベントの監視は CPIC/SYSTEM ユーザで操作できます。</p>
---------------	---

初期パスワード	<p>HPSAP_30 以外の SAP で許可しているすべての値</p> <p>パスワード HPSAP_30 は デフォルト 値と関連付けられており、この値は管理テンプレートのデプロイ中にパラメータの一部として SAP システムに対して入力されたパスワードです。</p> <p>デフォルト値を使用する場合でも、現時点では HPSAP_30 は入力できません。まず、ユーザ名として ITOUSER を使用して SAP にログオンする必要があります。セットアップの完了後、SAP によって ITOUSER のパスワードを設定することを求めるメッセージが表示されたときパスワードとして HPSAP_30 を使用してください。</p>
ユーザロール	<p>SAP バージョン 4.6C 以降では、SAP ユーザロールを定義する必要があります。トランザクション /nsu01 を使用してください。ただし、ITOUSER が OMi MP for SAP ABAP 機能を実行できるようになるには、認証が必要になります。次のユーザロールを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ /HPOV/SAPSPI_MONITORING_TCODE <p>このユーザロールは、特定の SAP トランザクションの使用を有効にし、OMi MP for SAP 機能に対する制限はありません。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ /HPOV/SAPSPI_MONITORING_NO_TCD <p>このユーザロールには、SAP トランザクションの認証 (NO_TCD) は含まれません。SAP ユーザは OMi MP for SAP アプリケーションやオペレータ起動アクションを開始できないため、OMi MP for SAP 機能が制限されます。ただし、SAP ユーザはこれまでどおり SAP にログオンできます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ /HPOV/SAPSPI_SECURITY_MON <p>SAPABAP_SecMon 監視テンプレートを使用して SAP システム セキュリティを監視する場合、ITOUSER (または、SAPABAP_SecMon 監視テンプレートを実行するユーザ) に、OMi MP for SAP セキュリティ ユーザロールの /HPOV/ SAPSPI_SECURITY_MON で定義されている認証も割り当てる必要があります。</p>

4. プロファイルを有効にし、作成済みの SAP ユーザ ITOUSER にそのプロファイルを割り当てます。

OMi MP for SAP ロールを割り当てる際は、必要なすべての認証オブジェクトが有効になっており、ユーザ照合が正常に完了したことを確認することが重要になります。SAP では、ユーザ認証オブジェクトが有効になっていたり、ユーザ照合が正常に完了していたりする場合、緑色で示されます。ユーザ認証オブジェクトを有効にする必要があったり、ユーザ照合を完了させる必要があったりする場合、赤色で示されます。トランザクション SU01 は、SAP ユーザロールの詳細を表示します。

5. ユーザ ITOUSER として SAP にログオンします。
6. SAP NetWeaver によって ITOUSER に対して最初に指定したパスワードを変更することを求めるメッ

ページが表示されます。独自の SAP ユーザログインを指定せずにデフォルト値を使用する場合は、OMi MP for SAP 管理テンプレートのデプロイ中にパラメータで新しいパスワード HPSAP_30 を入力します。

SAP J2EE アプリケーション サーバを監視するためのユーザロールの設定

SAP J2EE アプリケーション サーバを監視するために j2ee_admin 以外のユーザロールを使用する場合は、以下の手順を実行します。

注: SAP デュアルスタックシステムでは、以下の手順を実行する必要があります。

1. SU01 トランザクションを使用して、SAP ABAP スタック上にユーザを作成します。ABAP スタック上に作成したユーザにはロールを割り当てないでください。
2. j2ee_admin ユーザを使用して、SAP システムの Netweaver Administrator にログオンします。
3. ABAP スタック上で作成したユーザに SAP_JAVA_NWADMIN_CENTRAL_READONLY を割り当てます。

lib ファイルのインストールメンテーションフォルダへのコピー

RFC Library ファイルをダウンロードしインストールメンテーションフォルダにコピーするには、以下の手順を実行します。

1. SAP Download Distribution Center Web サイトから OMi MP for SAP 管理対象ノードのオペレーティングシステムに対応する SAP RFC SDK 6.40 をダウンロードします。
2. RFC SDK の内容を展開して、ライブラリファイルを OMi MP for SAP 管理対象ノード上の次の場所にコピーします。

Windows の場合:

- %OvAgentDir%/bin/instrumentation

UNIX の場合:

- /var/opt/OV/bin/instrumentation

注: お使いの環境にデプロイされている SAP のバージョンに関係なく RFC SDK バージョン 6.40 をダウンロードする必要があります。

SAP ライブラリ

ノード プラットフォーム	ライブラリ ファイル
Windows 32 ビット	librfc32.dll
Windows X64	librfc32.dll
Linux	librfccm.so
Linux	librfccm.so
Linux	librfccm.so
Solaris	librfccm.so
HP-UX IA-64 64 ビット	librfccm.so
HP-UX PA-RISC	librfccm.sl
Aix ^a	librfccm.so

a. サポートされているすべてのフレーバーの AIX では、AIX 64 ビット RFC SDK (6.40) を使用します。

LD_LIBRARY_PATH での libgcc_s.so の設定

Solaris 管理対象ノードの LD_LIBRARY_PATH で libgcc_s.so を設定するには、以下の手順を実行します。

1. 次のコマンドを使用して、Solaris 管理対象ノードで **libgcc_s.so** を検索します。

```
find / -name libgcc_s.so
```

2. 次のコマンドを使用して、32 ビットの libgcc_s.so を検索します。

```
file <libgcc_s.so とパス>
```

3. Solaris 管理対象ノードに 32 ビットの libgcc_s.so がインストールされていない場合は、**GCC ランタイム ライブラリ** パッケージをインストールします。
4. **LD_LIBRARY_PATH** を 32 ビットの libgcc_s.so パスに設定します。

SAP ABAP 監視テンプレートの設定とデプロイ

OMi MP for SAP には SAP ABAP 監視テンプレート セットが含まれています。これらのテンプレートを設定して、お使いの SAP 環境内の ABAP アプリケーション サーバのさまざまな情報を収集するために定期的に行います。OMi MP for SAP では、SAP ABAP 監視テンプレートをお使いの監視の要件に合わせて幅広くカスタマイズできます。各 SAP ABAP 監視テンプレートを使用すると、ABAP アプリケーション サー

バの機能セットを監視できます。各 SAP ABAP 監視テンプレートには、特定の機能を監視するために設定できる一連のアラートタイプがあります。OMi MP for SAP には標準設定の構成を持つ SAP ABAP 監視テンプレートがいくつかあり、手動で設定せずにそのままデプロイできます。デフォルトの設定を持たない SAP ABAP 監視テンプレートは、デプロイ前に手動で設定する必要があります。

以下の表は、標準設定の構成を持つ SAP ABAP 監視テンプレートの一覧です。

SAP ABAP 監視テンプレート	説明
SAPABAP_CCMSIntegrationMon	SAP CCMS 監視インフラストラクチャの出力を監視する SAP ABAP 監視テンプレート。
SAPABAP_DispMon	さまざまな種類の SAP ワークプロセスに対する各種のキューのサイズ、内容、ステータスを監視する SAP ABAP 監視テンプレート。
SAPABAP_DumpMon	SAP ABAP システムで発生するランタイムエラーを監視する SAP ABAP 監視テンプレート。
SAPABAP_LckChkMon	各種の SAP トランザクションと SAP レポートの SAP ABAP 論理ロックを管理する Enqueue プロセスを監視する SAP ABAP 監視テンプレート。
SAPABAP_Perfmon	各種の SAP OMi MP for SAP パフォーマンスモニタから SAP パフォーマンスメトリックを収集する SAP ABAP 監視テンプレート。
SAPABAP_SplMon	SAP ABAP スプーラエントリの数、エラー生成スプール要求、印刷要求での間違ったスプーラエントリ数を監視する SAP ABAP 監視テンプレート。
SAPABAP_StatusMon	SAP ABAP アプリケーションサーバの可用性ステータスを監視する SAP ABAP 監視テンプレート。
SAPABAP_TraceMon	すべての SAP トレースとログファイルにおいて "ERROR" を監視する SAP ABAP 監視テンプレート。
SAPABAP_TransMon	正常にインポート/エクスポートされた SAP ABAP の移送、失敗したインポート/エクスポート、確認済み/未確認の修復の可用性、設定システムとの接続/TP テストを監視する SAP ABAP 監視テンプレート。
SAPABAP_UpdProcMon	非アクティブのステータスとエラーなどの SAP ABAP 更新プロセスのさまざまな状態を監視する SAP ABAP 監視テンプレート。
SAPABAP_WPMon	作業プロセスの実行、作業プロセスの待機、Debug/Private/No Restart などのワークプロセスの各種のステータスの確認を監視する SAP ABAP 監視テンプレート。

SAP ABAP 監視テンプレートの設定の詳細については、OMi MP for SAP オンラインヘルプを参照してください。

ドキュメントのフィードバックを送信

本ドキュメントについてのご意見、ご感想については、電子メールでドキュメント制作チームまでご連絡ください。このシステムで電子メールクライアントが設定されていれば、このリンクをクリックすることで、以下の情報が件名に記入された電子メールウィンドウが開きます。

Feedback on インストールガイド (OMi Management Pack for SAP 1.00)

本文にご意見、ご感想を記入の上、[送信]をクリックしてください。

電子メールクライアントが利用できない場合は、上記の情報をコピーしてWebメールクライアントの新規メッセージに貼り付け、docfeedback@hp.com宛にお送りください。

お客様からのご意見、ご感想をお待ちしています。